



IncluDE

UTokyo

多様性包摂共創センター



多様性包摂共創センター

Center for Coproduction of Inclusion, Diversity and Equity

2024年度年次報告書

IncluDE Annual Report 2024

index

▶ 第一部 IncluDE 全体／DEI 共創推進戦略室	02
chapter 01 組織概要	
01-1 組織概要	03
01-2 構成員	10
01-3 委員会等	18
chapter 02 活動報告	
02-1 開所式	20
02-2 SOGI イベントなど	21
02-3 実施研修	22
02-4 共催イベント	22
chapter 03 研究業績・発信	
03-1 業績リスト（専属メンバー）	23
03-2 メディア掲載	30
▶ 第二部 研究部門	31
chapter 01 ランチセミナー	
01-1 ランチセミナー	32
chapter 02 研究業績	
02-1 業績リスト	36
▶ 第三部 実践部門	43
chapter 01 ジェンダー・エクイティ推進オフィス報告書	
01-1 ジェンダー・エクイティ推進オフィス報告書	44
chapter 02 バリアフリー推進オフィス報告書	
02-1 バリアフリー推進オフィス報告書	74

01

第一部



IncluDE全体／
DEI共創推進戦略室

Who we are

IncluDE 多様性包摂共創センターとは

IncluDEは、当事者の困り事を起点に様々な実践領域と研究領域をつなぎ、ジェンダー・エクイティとバリアフリーの推進を通して、多様な人々の公平な包摂を実現する学知とキャンパス環境を共同創造します。

東京大学では、平成 14 年(2002 年)に設置された「バリアフリー支援室」と、平成 18 年(2006 年)に設置された「男女共同参画室」が中心となり、障害者支援とジェンダー平等を推進し、インクルーシブなキャンパスづくりに貢献してきました。令和 6 年(2024 年)4 月、この 2 つの室はこれまでの蓄積をふまえて発展的に統合され、「多様性包摂共創センター Center for Coproduction of Inclusion, Diversity and Equity」として新たな出発をし、「世界のだれもが来たくなる大学」の実現を推進します。センターの愛称は IncluDE。みなさん、気軽に IncluDE(インクルード)と呼んでください。

IncluDE のキーワードは「共同創造 (Coproduction)」。

この言葉には当事者(女性、性的マイノリティ、障害者など)と研究者等が力を合わせて、ともにより良い社会をつくっていく意味が込められています。だから合言葉は Nothing about us without us! (私たちなしで私たちのことを決めないで!) このスピリットを大切にしながら、IncluDE では以下の目標に向かって活動します。



ダイバーシティ (Diversity 多様性)、エクイティ (Equity 公平性)、インクルージョン (Inclusion 包摂性) の頭文字をとって DEI と言いますが、IncluDE の人の形にも見えるロゴもこれらの頭文字でできています。

Our Goals 私たちの目標

01

当事者と研究者の共同創造

Coproduce research results with underrepresented members



02

研究と実践の好循環

Achieve a virtuous cycle of synergy between research and practice



03

ジェンダー平等の達成

Achieve gender equity



04

ライフステージに合った支援体制

Provide a seamless support system that covers every stage of life



05

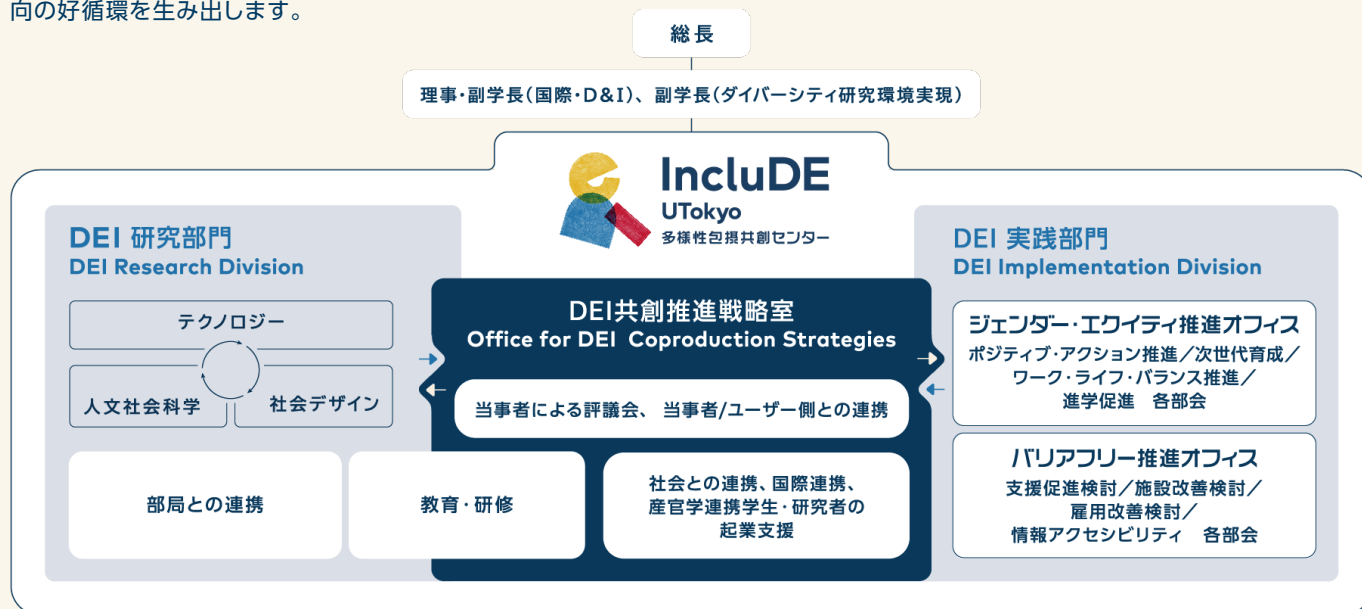
交差性を考慮にいたった支援と環境整備の実践

Respond to the needs of contemporary intersectionality



Organization Chart 組織構成

IncluDE には 2 つのオフィスからなる DEI 実践部門を置き、マイノリティ性をもつ学生と教職員をシームレスに支援する体制に改組した事務組織とともに環境整備と支援に取り組んでいます。それに加えて、諸分野に分散している学内の DEI 関連の研究を糾合した DEI 研究部門を設置し、この分野の最先端の知見を生み出し、可視化します。DEI 共創推進戦略室は、これら 2 部門をつなぎ、双方の好循環を生み出します。



01

DEI共創推進戦略室

Office for DEI Coproduction Strategies

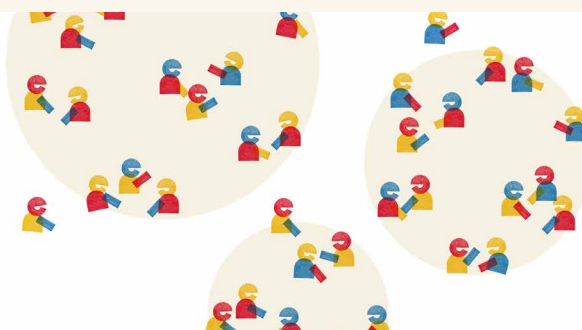


センター長と、研究部門、実践部門の2部門の主要構成員も参加し、両部門をつなぐ IncluDE の中核機能を担います。研究と支援を循環させるだけではなく、企業、地域、他大学など、広く社会との連携を強化します。また、デジタル情報技術を活用して、センターで行われている先端研究、および学内外のさまざまな DEI 関連のリソースやイベント情報、学内サービスなどを可視化し、DEI イノベーションに関する情報の発信源としての役割を果たします。また、DEI 研究部門や DEI 実践部門と協力して、ジェンダー・セクシュアリティや障害に関する教育・研修プログラムを学内で実施し、インクルーシブなキャンパス文化の醸成に寄与します。同時に、実践で得られた知見を活かして、日本・アジアの文化事情を考慮に入れた新しい DEI 教育のあり方を追究し、その成果を国内外に発信していきます。さらに、とくに障害に関しては、「障害の社会モデル」に則り、アドバイザーとして「当事者評議会」を設置します。センターのすべての活動に困難の当事者の視点を取り入れるとともに、産官学連携や起業支援を通じて研究成果を着実に地域社会に普及・実装させます。ジェンダー平等や性の多様性についても、適宜、内外の専門家や当事者に意見を聞き、東京大学、そして日本の DEI にかかわる課題の解決を探ります。

02

DEI研究部門

DEI Research Division



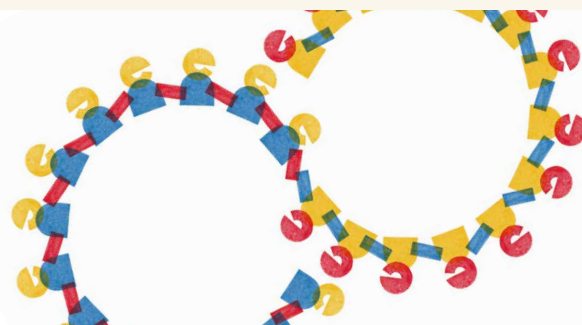
東京大学には、ジェンダー・セクシュアリティ研究、障害学の権威が大勢います。DEI 研究部門は、こうした、学内に散在するDEI関連分野の研究者が集まる場となります。各分野の研究者たちは、相互に研究成果をインプットし合うことによって、従来の学問の枠を超え、需要・ユーザー主導のDEI社会デザインに関わる研究分野の拠点をつくります。

また、DEI実践部門と当事者による評議会とから、いまだ満たされていない当事者のニーズについての適切なインプットを得ることによって、より良い解決を提供できる研究開発を行います。

03

DEI実践部門

DEI Implementation Division



この部門には、バリアフリー推進オフィス（旧バリアフリー支援室）とジェンダー・エクイティ推進オフィス（旧男女共同参画室）があり、これまで両室が担ってきた実践的機能を、余すことなく担います。

さらに、両室がIncluDEの一部門として統合され密に連携することで、交差性に対応できる支援も提供します。また、研究部門の成果を反映し、これまで以上に充実した学内サービスを実現します。加えて、実践現場で得られるニーズや知見を研究部門へとインプットし、知と実践の好循環を生み出します。

DEI実践部門の2つのオフィス



IncluDE

多様性包摂共創センター

ジェンダー・エクイティ推進オフィス

旧男女共同参画室として実施してきた教職員・学生向けの保育園整備や女性学生を増やすための母校訪問などの取り組みを引き続き実施しています。ジェンダーエクイティの実現に向け、令和4年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」UTokyo男女+協働改革#We Changeも推進中。



IncluDE

多様性包摂共創センター

バリアフリー推進オフィス

東京大学は、障害のある学生と教職員が、障害ゆえに修学・研究・教育・就労上不利を受けることのないよう、合理的配慮の提供と環境整備に努めています。この目的を達成するために、東京大学バリアフリー推進オフィス（旧バリアフリー支援室）は、障害のある構成員の実情とニーズを聞き取り、実際のサポートを担う学部・研究科、研究所等の部局と密に連携しています。

Top message

トップメッセージ



東京大学総長 藤井 輝夫

President, The University of Tokyo
FUJII Teruo

東京大学は、本学の基本方針を示した「UTokyo Compass 多様性の海へ：対話が創造する未来」（2021年9月公表）において、対話を通じた創造、多様性と包摂性を大切に、世界の誰もが来なくなる大学を創り上げていくことを基本理念に掲げています。東京大学多様性包摂共創センターは、その実現を目指す場として設置されました。

人類社会が直面する地球規模の課題に取り組むには、多様なバックグラウンドを持つ人々がこの困難な状況について自ら「問い」を立て、それを共有し、ともに考えることが大切です。本センターには、東京大学の多岐にわたる先端的分野の研究者が結集し、分野横断型・学際的研究モデルを創り、実践します。

本センターにおけるDEI 関連分野の最先端の研究成果を支援現場に反映させ、逆に支援現場で得られる未解決課題を研究へインプットする、そのような研究と支援の好循環を生み出すことで、一層公正な社会の実現に向けて貢献していきます。



東京大学理事・副学長 林 香里

Executive Vice President The University Tokyo
HAYASHI Kaori

私は2021年に理事・副学長に着任し、東京大学の多様化を使命として取り組んできました。そして、東京大学を、誰もが心地よく研究でき、教育を受けられる場にするために、男女共同参画室、バリアフリー支援室といったそれぞれの専門を持つ「室」に横串を通して、真にインクルーシブなキャンパスを考える包括的な場を作ることが、ひとつの大きな目標でした。

インクルーシブなキャンパスとはつまり、ダイバーシティ（多様性）を前提としている「他者」がいることが当たり前という認識をひとりひとりが持つ場をつくるということです。気心の知れた仲間同士で「言わなくても通じる」環境は、気楽かもしれません。けれども、それを気楽と感じていない人もほんとうはいるはず。出自も考えも異なる人のことを考え、行動することは、想像力の鍛錬・創造性につながります。それは学問に励む場としての基礎であるだけでなく、東京大学で、そして広く社会において活動するひとりひとりの生きる力＝幸せへと循環していくのです。何より、ダイバーシティが包摂された環境は、新たな発見の連続で楽しいです！

「東京大学多様性包摂共創センター」の開所はゴールではなく、スタートです。東京大学の構成員一人ひとりにD(多様性)、E(公正性)、I(包摂性)を意識してもらい、キャンパスで自分の能力を存分に発揮できるようサポートする、そんな役割を果たしていくために、センターをさらに発展させていきたいと思っています。



センター長 伊藤 たかね

Director, IncluDE

東京大学多様性包摂共創センターは、これまで東京大学におけるDEIの実践を担ってきたバリアフリー支援室と男女共同参画室を実践部門として統合し、研究科・研究所などの学内各所で活躍しているDEI分野の研究者を糾合する研究部門をもつセンターとして、新設されました。両部門に加えてDEI共創推進戦略室を置き、学内で行われている最先端のDEI研究成果を可視化し、学内における実践に反映させると同時に、実践の最前線で得られる知見を活かすことで新たな学知の創発につなげるという、研究と実践の間の好循環を生み出すことを目指します。センターの英語名は、Center for Coproduction of Inclusion, Diversity and Equityとし、覚えやすく呼びやすいようにIncluDEを愛称とします。

「多様性」のあり方は、それ自体が実に多様です。そして私たちは誰もが、マジョリティ性とマイノリティ性をあわせ持つ当事者であり、マジョリティとマイノリティの間にある格差に自覚的であることが求められます。IncluDEは、「当事者主導」の概念を軸に、すべての当事者がそれぞれの個性にあわせて力を発揮できる場をつくるための基盤を、研究と実践の両面からつくっていきます。また、本学の長年の課題である教員および学生における女性比率の向上も大きな目標の一つです。

すべての構成員が、DEIを、「困っている誰かのためのもの」ではなく「我が身にかかわること」として捉えることが、基盤づくりの要となります。そのため、IncluDEは、種々の啓発活動や教職員向けの研修を含めた広い意味での教育活動を、重要な事業として位置付けます。まずは学内の意識変容とそれに基づく行動変容を、そして将来的には社会全体の意識や行動の変容を、着実に促す仕組みを考案し、実践活動に結びつけていきます。

むろん、これらの事業はセンター単独で行うことはできません。国内外で先進的な取り組みを行う産・官・学の諸機関に学び、そのいくつかと連携して事業を行うことによって、IncluDEの活動を高めていきます。また、学内の実践においては、学内共同教育研究施設として、それぞれの部局と連携して全学のDEI推進を強化します。

新設のセンターとして、みなさまのご助力を得て新たな道を拓いていく所存でございますので、ご理解、ご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

History

沿革

ジェンダー・エクイティ推進オフィス Office for Gender Equity

- 2003 ● 東京大学男女共同参画宣言発表
- 2006 ● 男女共同参画室設置  東京大学男女共同参画室
Office for Gender Equality, The University of Tokyo
- 2007 ● 東大病院いちよう保育園（医学部附属病院職員対象）開園
● 平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
- 2008 ● 東大本郷けやき保育園、東大白金ひまわり保育園、
東大駒場むくのき保育園、東大柏どんぐり保育園（全学対象）開園
- 2009 ● 東京大学男女共同参画加速のための宣言発表
● 第1回目「くるみん」認定
- 2010 ● 平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」事業採択
- 2011 ● 平成23年度科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援」事業採択
- 2016 ● 第2回目「くるみん」認定
- 2018 ● 東京都女性活躍推進大賞「優秀賞」受賞
● 本郷キャンパス内にポピンズナーサリースクール 東大本郷さくら（企業主導型事業所内保育所）新設
- 2022 ● 東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言の制定
● 令和4年度科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」事業採択（～令和9年度）
● 社会デザイン学会「社会デザイン学会奨励賞」受賞：東京大学改革宣言（東京大学総長 藤井輝夫）
- 2024 ● 多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィスへ改組  **IncluDE**
UTokyo
多様性包摂共創センター

バリアフリー推進オフィス Office for Disability Equity

- 2002 ● バリアフリー支援室本郷支所 開設（理学部旧1号館）
- 2003 ● 「東京大学バリアフリープラン2004 ～バリアフリー支援 準備室からバリアフリー支援室へ～」策定
- 2004 ● 東京大学バリアフリー支援室 発足（駒場Ⅱキャンパス）
- 2005 ● 「東京大学の障害者雇用に係る行動計画」策定
● 「バリアフリーの全学的推進に係る基本的な考え方について」策定
- 2006 ● バリアフリー支援室本郷支所 開設
- 2015 ● 「バリアフリー支援室 障害者雇用問題検討部会提言（草案）
ー本学における障害のある職員の集中雇用に関する課題についてー」策定
- 2016 ● バリアフリー支援室本郷支所柏分室 開設
- 2018 ● 「情報システムのバリアフリー化に関する基本方針（草案）」策定
- 2022 ● 東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言の制定
● 社会デザイン学会「社会デザイン学会奨励賞」受賞：東京大学改革宣言（東京大学総長 藤井輝夫）
● 内閣府特命担当大臣表彰奨励賞 受賞
- 2024 ● 多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィスへ改組



Members メンバー

Management Members 運営メンバー



センター長
伊藤 たかね
ITO Takane

副学長/
多様性包摂共創センター
特任教授



副センター長
熊谷 晋一郎
KUMAGAYA
Shinichiro



DEI共創推進戦略室
戦略室長
先端科学技術研究センター 教授



副センター長
松田 雄二
MATSUDA Yuji



バリアフリー推進オフィス
オフィス長
工学系研究科 准教授



副センター長
田野井 慶太郎
TANOI Keitaro



ジェンダー・エクイティ推進オフィス
オフィス長
農学生命科学研究科 教授



林 香里
HAYASHI Kaori



理事・副学長（国際,D&I）
情報学環 教授



吉江 尚子
YOSHIE Naoko

副学長/
生産技術研究所 教授



松井 正一
MATSUI Shoichi

副理事

Full-time Members

IncluDE専属メンバー



伊藤 たかね

ITO Takane

副学長/
多様性包摂共創センター 特任教授



切原 賢治

KIRIHARA Kenji

バリアフリー推進オフィス
副オフィス長 准教授
専門領域：障害者支援／精神医学



ジェンダー・エクイティ推進オフィス



小川 真理子

OGAWA Mariko

ジェンダー・エクイティ推進オフィス
副オフィス長 特任准教授
専門領域：ジェンダー／社会学



バリアフリー推進オフィス



中津 真美

NAKATSU Mami

バリアフリー推進オフィス 特任助教
専門領域：障害者支援／聴覚障害学／
コーダの心理社会的研究



安東 明珠花

ANDO Asuka

ジェンダー・エクイティ推進オフィス
特任研究員
専門領域：社会言語学／
バイリンガリズム／ろう研究



久保 京子

KUBO Kyoko

ジェンダー・エクイティ推進オフィス
特任研究員
専門領域：教育社会学／高等教育論



DEI共創推進戦略室



中野 円佳

NAKANO Madoka

DEI共創推進戦略室 副室長 准教授
専門領域：教育社会学／ジェンダー



福田 和子

KAZUKO Fukuda

DEI共創推進戦略室 特任研究員
専門領域：ジェンダー／公衆衛生/SRHR



金 智慧

KIM Jihye

DEI共創推進戦略室 特任研究員
専門領域：臨床心理学／文化人類学／
ジェンダー・セクシュアリティ



Affiliated Faculty

兼務教員リスト

DEI Research Division

DEI研究部門 (46名)

浅井 幸子 ASAI Sachiko教育学研究科 教授
ジェンダー・エクイティ推進オフィス 副オフィス長**綾屋 紗月** AYAYA Satsuki先端科学技術研究センター 特任准教授
専門領域：当事者研究／共同創造**出口 敦** DEGUCHI Atsushi新領域創成科学研究科 教授
専門領域：都市計画学／アーバンデザイン**藤田 結子** FUJITA Yuiko

情報学環・学際情報学府 准教授

福永 玄弥 FUKUNAGA Genya

教養学部附属教養教育高度化機構 准教授

本田 由紀 HONDA Yuki教育学研究科 教授
専門領域：教育社会学**星加 良司** HOSHIKA Ryoji教育学研究科 教授
専門領域：社会学、障害学**井口 高志** IGUCHI Takashi人文社会系研究科 准教授
専門領域：健康と病の社会学／福祉社会学／認知症研究**石垣 琢磨** ISHIGAKI Takuma総合文化研究科 教授
専門領域：精神医学／臨床心理学**石原 孝二** ISHIHARA Kohji総合文化研究科 教授
専門領域：精神医学の哲学／現象学／精神医療と人権／障害の哲学**板津 木綿子** ITATSU Yuko情報学環・学際情報学府 教授
専門領域：歴史／視覚文化／AIの文化研究**ジェイソン・G・カーリン** KARLIN Jason G.情報学環・学際情報学府 教授
専門領域：メディア論／ソーシャルメディア研究**笠井 清登** KASAI Kiyoto医学系研究科 教授
専門領域：精神医学**金道 浩一** KINDO Koichi物性研究所 教授
専門領域：物性物理学**小国 喜弘** KOKUNI Yoshihiro教育学研究科 教授
専門領域：日本教育史

DEI研究部門

近藤 武夫 KONDO Takeo

先端科学技術研究センター 教授
専門領域：インクルーシブ教育・雇用

國吉 康夫 KUNIYOSHI Yasuo

情報理工学系研究科 教授
専門領域：Artificial Intelligence / Robotics / Cognitive Science

前田 健太郎 MAEDA Kentaro

公共政策学連携研究部 教授
専門領域：政治学／行政学

松田 恭幸 MATSUDA Yasuyuki

総合文化研究科 教授
専門領域：物理学

松田 雄二 MATSUDA Yuji

工学系研究科 准教授
専門領域：建築計画学

松井 彰彦 MATSUI Akihiko

経済学研究科 教授
専門領域：ゲーム理論／障害と経済

宮本 有紀 MIYAMOTO Yuki

医学系研究科 准教授
専門領域：精神保健看護学／共同創造

武藤 香織 MUTO Kaori

医科学研究所 教授
専門領域：医療社会学／研究倫理

長井 志江 NAGAI Yukie

国際高等研究所 特任教授
専門領域：認知発達ロボティクス／発達障害者支援技術

永吉 希久子 NAGAYOSHI Kikuko

社会科学研究所 准教授
専門領域：社会学／世論研究

並木 重宏 NAMIKI Shigehiro

先端科学技術研究センター 准教授
専門領域：バリアフリー／生物学

二瓶 美里 NIHEI Misato

情報理工学系研究科 教授
専門領域：福祉工学／生活支援工学／生活システム工学

額賀 美紗子 NUKAGA Misako

教育学研究科 教授
専門領域：教育社会学／比較教育学

大原 美保 OHARA Miho

情報学環・学際情報学府／生産技術研究所 教授
専門領域：災害リスク軽減学

小原 優貴 OHARA Yuki

グローバル教育センター 准教授
専門領域：比較教育学／南アジア地域研究

隠岐 さや香 OKI Sayaka

教育学研究科 教授
専門領域：科学史／高等教育史

小野 仁美 ONO Hitomi

人文社会系研究科 助教
専門領域：イスラム学／ジェンダー史

多田 恵里沙 RUIZ-TADA Elisa

グローバル教育センター 特任講師

DEI研究部門

里村 嘉弘 SATOMURA Yoshihiro 医学系研究科 准教授
専門領域：医学教育／精神医学

瀬地山 角 SECHIYAMA Kaku 総合文化研究科 教授
専門領域：ジェンダー論／社会学

清水 晶子 SHIMIZU Akiko 総合文化研究科 教授
専門領域：フェミニズム／クィア理論／批評文化理論

高野 明 TAKANO Akira 相談支援研究開発センター 教授
専門領域：臨床心理学／学生相談

高谷 幸 TAKAYA Sachi 人文社会系研究科 准教授
専門領域：社会学／移民研究

田中 東子 TANAKA Toko 情報学環・学際情報学府 教授
専門領域：メディア文化／テクノロジー／フェミニズム

サイ オーロラ TSAI Aurora グローバル教育センター 特任講師 専門領域：批判的応用言語学／
文化的と人種のミックス・アデンティティー／言語的と人種的イデオロギー

矢口 佑人 YAGUCHI Yujin 総合文化研究所 教授
専門領域：アメリカ研究／太平洋島嶼文化

山口 慎太郎 YAMAGUCHI Shintaro 経済学研究科 教授
専門領域：労働経済学

山中 俊治 YAMANAKA Shunji 特別教授室 特任教授
専門領域：デザインエンジニアリング

横山 広美 YOKOYAMA Hiromi 国際高等研究所 教授
専門領域：科学技術社会論

吉本 英樹 YOSHIMOTO Hideki 先端科学技術研究センター 特任准教授
専門領域：デザイン

四本 裕子 YOTSUMOTO Yuko 総合文化研究科 教授
専門領域：認知神経科学

DEI Implementation Division

DEI実践部門 (47名)

浅井 幸子 ASAI Sachiko 教育学研究科 教授

遠藤 利彦 ENDOU Toshihiko 教育学研究科 教授

榎本 有希子 ENOMOTO Yukiko 農学生命科学研究科 准教授

藤本 博志 FUJIMOTO Hiroshi 新領域創成科学研究科 教授、総長補佐

福島 智 FUKUSHIMA Satoshi 先端科学技術研究センター 特任教授

後藤 由季子 GOTOH Yukiko 薬学研究科 教授

星加 良司 HOSHIKA Ryoji 教育学研究科 教授

細谷 紀子 HOSOYA Noriko 医学系研究科 准教授

石坂 香子 ISHIZAKA Kyoko 工学系研究科 教授

伊藤 恵理 ITOH eri 先端科学技術研究センター 教授、総長補佐

梶 奈美子 KAJI Namiko 相談支援研究開発センター 助教

笠井 清登 KASAI Kiyoto 医学系研究科 教授

川崎 雅裕 KAWASAKI Masahiro 宇宙線研究所 教授

金道 浩一 KINDO Koichi 物性研究所 教授

小島 慎司 KOJIMA Shinji 法学政治学研究科 教授

近藤 絢子 KONDO Ayako 社会科学研究所 教授

近藤 武夫 KONDO Takeo 先端科学技術研究センター 教授

DEI実践部門

熊田 亜紀子	KUMADA Akiko	工学系研究科 教授
熊谷 晋一郎	KUMAGAYA Shinichiro	先端科学技術研究センター 教授
李 正連	LEE Jeongyun	教育学研究科・教育学部 教授、総長補佐
前田 健太郎	MAEDA Kentaro	公共政策学連携研究部 教授
真鍋 祐子	MANABE Yuko	東洋文化研究所 教授
松田 巖	MATSUDA Iwao	物性研究所 教授
松田 恭幸	MATSUDA Yasuyuki	総合文化研究科 教授
松田 雄二	MATSUDA Yuji	工学系研究科 准教授
松山 桃世	MATSUYAMA Momoyo	生産技術研究所 准教授
並木 重宏	NAMIKI Shigehiro	先端科学技術研究センター 准教授
王寺 賢太	OHJI Kenta	人文社会系研究所 教授
大杉 美穂	OHSUGI Miho	理学系研究科 教授
大久保 靖司	OKUBO Yasushi	環境安全本部 教授
大島 紀人	OSHIMA Norihito	相談支援研究開発センター 准教授
佐藤 薫	SATOU Kaoru	理学系研究科 教授
小林 英津子	KOBAYASHI Etsuko	工学系研究科 教授
里村 嘉弘	SATOMURA Yoshihiro	医学系研究科 准教授
澤田 康幸	SAWADA Yasuyuki	経済学研究科 教授
瀬戸口 留可	SETOGUCHI Ruka	薬学研究科 准教授

DEI実践部門

水津 太郎 SUIZU Taro 法学政治学研究科 教授

玉造 潤史 TAMATSUKURI Junji 情報システム本部 准教授

田中 智 TANAKA Satoshi 農学生命科学研究科 教授

田野井 慶太郎 TANOI Keitaro 農学生命科学研究科 教授

佐藤 至子 SATO Yukiko 人文社会系研究科 教授

寺田 寅彦 TERADA Torahiko 総合文化研究科 教授

ティクシエ アニエス 三田 TIXIER-MITA Agnès 生産技術研究所 准教授

植阪 友理 UESAKA Yuri 教育学研究科 准教授

山口 慎太郎 YAMAGUCHI Shintaro 経済学研究科 教授

山崎 俊彦 YAMASAKI Toshihiko 情報理工学系研究科 教授、総長補佐

吉江 尚子 YOSHIE Naoko 副学長・生産技術研究所 教授

Committee

委員会

多様性包摂共創センター運営委員会（月1回開催）

組織に関する事項、教員の人事に関する事項、予算に関する事項、
その他センターの運営及び事業に関する重要事項について決定する委員会

所 属	役 職	氏 名
多様性包摂共創センター	センター長／副学長	伊藤 たかね
総長室	理事・副学長	林 香里
生産技術研究所	教授／副学長	吉江 尚子
先端科学技術研究センター	教授	熊谷 晋一郎
農学生命科学研究科	教授	田野井 慶太郎
工学系研究科	准教授	松田 雄二
多様性包摂共創センター	准教授	切原 賢治
多様性包摂共創センター	准教授	中野 円佳
医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター	准教授	里村 嘉弘
総合文化研究科 教養教育高度化機構 D&I 部門	教授	清水 晶子
教育学研究科 バリアフリー教育開発研究センター	教授	星加 良司
情報学環・学際情報学府	准教授	藤田 結子
新領域創成科学研究科	准教授	久保 麦野
情報基盤センター	教授／副センター長	小林 博樹
相談支援研究開発センター	センター長／副学長	佐藤 岩夫
グローバル教育センター	センター長／副学長	矢口 祐人
教育学研究科	教授	隠岐 さや香
情報理工学系研究科	教授	二瓶 美里
多様性包摂共創センター	特任准教授	小川 真理子

多様性包摂共創センター総務委員会（週1回開催）

予算、人事及び運営等に関し、センター運営委員会に附議する事項等を検討する委員会

所 属	役 職	氏 名
多様性包摂共創センター	センター長／副学長	伊藤 たかね
総長室	理事・副学長	林 香里
生産技術研究所	教授／副学長	吉江 尚子
先端科学技術研究センター	教授	熊谷 晋一郎
農学生命科学研究科	教授	田野井 慶太郎
工学系研究科	准教授	松田 雄二
総長室	副理事	松井 正一
本部ダイバーシティ推進課	課長	増田 健司

委員会

研修・教育プロジェクト（月2回開催）

DEIに関する教育・研修の企画や教材の作製、すでに学内外で行われている授業・研修や使用されている教材のアーカイブ化、教育研修の提供方法に関する検討を行うチーム

所 属	役 職	氏 名
多様性包摂共創センター	センター長／副学長	伊藤 たかね
先端科学技術研究センター	教授	熊谷 晋一郎
多様性包摂共創センター	特任研究員	福田 和子
多様性包摂共創センター	特任研究員	金 智慧
多様性包摂共創センター	副オフィス長／准教授	切原 賢治
多様性包摂共創センター	特任助教	中津 真美
多様性包摂共創センター	特任研究員	安東 明珠花
多様性包摂共創センター	特任研究員	久保 京子

研修・教育ワーキンググループ（年2回開催）

DEIに関する専門的知見をもつ研究者と、研修・教育プロジェクトチームのメンバーからなり、DEI研修・教育活動全般について総合的な戦略を立て、実施を行うグループ

所 属	役 職	氏 名
多様性包摂共創センター	センター長／副学長	伊藤 たかね
先端科学技術研究センター	教授	熊谷 晋一郎
多様性包摂共創センター	特任研究員	福田 和子
多様性包摂共創センター	特任助教	中津 真美
多様性包摂共創センター	副オフィス長／准教授	切原 賢治
多様性包摂共創センター	特任研究員	安東 明珠花
多様性包摂共創センター	特任研究員	久保 京子
教養学部附属教養教育高度化機構	准教授	福永 玄弥
大学院教育学研究科	教授	本田 由紀
大学院人文社会系研究科	助教	小野 仁美
多様性包摂共創センター	バリアフリー推進オフィス 本郷支所長	金道 浩一
多様性包摂共創センター	バリアフリー推進オフィス 駒場支所長	松田 恭幸
大学院医学系研究科	准教授	宮本 有紀
総長補佐		李 正連
総長補佐		藤本 博志
総長補佐		山崎 俊彦
ダイバーシティ推進課		

Activity report

活動報告

2024.4.1

東京大学多様性包摂共創センター(IncluDE) 開所式が行われました



2024年4月1日、山上会館大会議室にて、東京大学多様性包摂共創センター (IncluDE) 開所式が行われました (ハイブリッド開催)。開所式では、伊藤たかねセンター長の開会挨拶のあと、藤井輝夫総長、林香里理事・副学長 (国際、ダイバーシティ&インクルージョン) のご挨拶がありました。式の後には、参加者全員で記念撮影を行い、ラウンジでコーヒーブレイクを行いました。

活動報告について
詳しくはこちら ▶



2024.7.2

第1回 SOGI イベント

「SOGI の多様性と包摂～誰もが自分らしく生きられる社会を目指して～」開催



東京大学IncluDEと生産技術研究所ダイニングラボの主催により、SOGIの多様性と包摂をテーマにしたネットワーキングイベントが開催されました。大学、企業、当事者団体など多様な立場の参加者が集い、各機関の先進的な取り組み紹介や、2026年度完成予定のD&I棟に関する意見交換が行われました。後半にはリレートークや交流会も実施され、活動の可視化と、安心して生きられる社会に向けた連携の重要性が確認されました。

<https://include.u-tokyo.ac.jp/news/79/>

2025.1.7

ヘイト発言や差別的な言動についての注意喚起

2025年1月7日に、本学構成員向けに「ヘイト発言や差別的な言動についての注意喚起」の通知をしました。

本通知は、宣言の理念に則り、他者の尊厳や権利を損ない、相互の信頼関係を破壊するような言動が起きないように、注意喚起をするものです。

<https://include.u-tokyo.ac.jp/news/614/>

注意喚起
全文はこちら



2025.3.17

第2回 SOGI イベント

「同性婚訴訟から考える結婚の平等と協働」開催



東京大学IncluDE主催で「同性婚訴訟から考える結婚の平等と協働」をテーマにイベントが開催されました。同性婚を巡る訴訟の現状や違憲判決の意義をMarriage For All Japanの寺原真希子さんが解説し、東京大学教授・戸常寿さんは憲法第14条に基づく法的課題を指摘。明治やラッシュジャパンの多様性推進、熊谷晋一郎副センター長による障害者支援の事例も紹介されました。パネルディスカッションや懇親会を通じて多様な立場が連携し、包摂社会の実現に向けた対話が深まりました。IncluDEは今後も共創の場づくりを進めます。

<https://include.u-tokyo.ac.jp/news/777/>

実施研修

タイトル	開催日	対象者	主担当 / 実施母体
全教職員受講必須研修 (旧ジェンダー・エクイティ研修)	2024年9月11日～ 10月31日 ※年度末まで受講可能	全教職員	DEI 共創推進戦略室 ジェンター・エクイティ 推進オフィス
役員研修	2024年9月10日	役員、部局長、管理職職員 (部長、各部局事務(部)長)	DEI 共創推進戦略室
階層別研修(任意研修) 特設サイト	オンライン受講	課長級・副課長級 係長級(初任者)	DEI 共創推進戦略室
階層別研修(必須研修)	2024年11月29日	係長級(5年経験者) 係員(3年経験者)	DEI 共創推進戦略室
新規採用職員研修(必須研修)	2024年12月11日	新規採用された 事務系・技術系職員	DEI 共創推進戦略室
新任教職員等基礎講習(必修)	オンライン受講	新規採用された 教職員	DEI 共創推進戦略室
バリアフリー支援研修会	オンライン受講	全教職員	バリアフリー 推進オフィス

共催イベント

開催日	関連オフィス	タイトル	主催・共催団体	URL
2024年9月16日	DEI 共創推進戦略室 バリアフリー推進 オフィス	国際シンポジウム「ニュー ロダイバーシティの源流 と展開」	東京大学先端科学 技術研究センター 当事者研究分野、 IncluDE 共催	https://include.u-tokyo.ac.jp/news/515/
2024年9月30日	DEI 共創推進戦略室 ジェンター・エクイティ 推進オフィス	「ライフサイエンス研究の ダイバーシティー多面的 な研究、多様なキャリアパ ス、多彩な研究者」	一般社団法人ライフサイエンス ・イノベーション・ネットワーク・ ジャパン(LINK-J)、東京大学 産学協創本部、IncluDE共催	https://include.u-tokyo.ac.jp/news/99/
2024年11月22日	DEI 共創推進戦略室 ジェンター・エクイティ 推進オフィス	Blend & IncluDE若 手研究ワークショップ「 IncluDEな研究って？－ 性差分析で研究をアップ デートしよう!」	Blend、 IncluDE 共催	https://include.u-tokyo.ac.jp/news/492/
2024年11月22日	研究部門 ジェンター・エクイティ 推進オフィス	東京フォーラム2024パ ネルディスカッション1 「ジェンダード・イノベ ーションの描く未来」	東京フォーラム主催/ IncluDE 共催	https://include.u-tokyo.ac.jp/news/647/
2024年11月22日	研究部門 DEI 共創推進戦略室	オンライン講演会「AIが 貢献する共生社会の未 来:AI手話翻訳の開発」	東京大学工学系 研究科国際工学 教育推進機構主催/ IncluDE 共催	https://include.u-tokyo.ac.jp/news/609/

Publication list

専属メンバーの2024年度の
研究業績・研究活動（五十音順）

安東 明珠花

ANDO Asuka

ジェンダー・エクイティ推進
オフィス 特任研究員

専門領域

社会言語学
バイリンガリズム
ろう研究

■ 主な研究テーマ

コーダの言語使用とアイデンティティ

■ 講演・口頭発表等

- ◆ コーダのバイリンガリズムに影響を与える要因と課題 安東明珠花
第1言語としてのバイリンガリズム研究会 第29回研究会
「バイモーダル（言語）環境にある子ども」2024年10月26日 招待あり

■ その他研究業績

安東明珠花, 久保京子, 中野円佳, 小川真理子, 伊藤たかね「活動報告 東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の 実践と効果検証の報告」『ポリモルフィア』2025年3月 10巻 10: 91-99

■ その他教育・社会貢献活動

[非常勤講師]

ユニバーサル・コミュニケーション演習（清泉女子大学）
言語コミュニケーション能力の発達（東京女子大学）

小川 真理子

OGAWA Mariko

ジェンダー・エクイティ推進
オフィス 副オフィス長
特任准教授

専門領域

ジェンダー／社会学

■ 主な研究テーマ

女性相談支援員（旧婦人相談員）の専門性、民間シェルター研究、
ジェンダー・エクイティ政策、女性研究者支援政策、
高等教育分野における女性のリーダーシップ

■ 共同研究・競争的資金等の研究課題

- ◆ 婦人相談員の専門性と公的相談支援の労働問題に関する研究
- ◆ 日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）（一般），
2021年4月 - 2025年3月 小川真理子（研究代表者）
- ◆ 経験的概念としての「ポジショナリティ」の発展的研究
日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）
2021年4月 - 2026年3月 小川真理子（研究分担者）

■ 論文

- ◆ 女性相談支援員（旧婦人相談員）の専門性と公的相談支援の労働問題に関する研究」報告書
小川真理子, 安部郁子, 川面充子, 小口恵巳子, 須賀朋子, 堀千鶴子, 大貫雅代, 小平悦子, 柴田美代子, 中村明美, 日下田恵里
- ◆ 日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）（一般）
「婦人相談員の専門性と公的相談支援の労働問題に関する研究」, 2025年2月

小川 真理子

OGAWA Mariko

論文

- ◆女性相談支援員（旧名 婦人相談員）は「非正規」のままで良いのか
須賀朋子, 小川真理子, 川面充子
酪農学園大学紀要 人文・社会科学編（49）27-36 2024年10月15日
- ◆日本の女性相談支援員（旧名 婦人相談員）の現状～常勤と非常勤の比較～
須賀朋子, 小川真理子, 安部郁子, 川面充子, 小口恵巳子, 堀千鶴子, 大貫雅代, 小平悦子, 柴田美代子,
中村明美, 日下田恵里
日本セーフティプロモーション学会学術誌（17）2-7 2024年4月

書籍等出版物

日本社会とポジショナリティ：沖縄と日本との関係、多文化社会化、ジェンダーの領域からみえるもの
池田緑編著, 江原由美子, 小川真理子, 定松文, 高橋哲哉, 玉城福子, 知念ウシ, 桃原一彦, 仁科薫, 山根俊彦, 明石書店 2024年

講演・口頭発表等

- ◆「女性相談支援員（旧婦人相談員）の専門性と公的相談支援の労働問題に関する研究」報告会
小川真理子, 安部郁子, 川面充子, 小口恵巳子, 須賀朋子, 堀千鶴子, 大貫雅代, 小平悦子, 柴田美代子,
中村明美, 日下田恵里
- ◆日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）（一般）「婦人相談員）の専門性と公的相談支援の労働問題に関する研究」, 2025年3月20日
- ◆Promoting gender equity and diversity: Efforts of UTokyo Gender Equity Initiative
#WeChange Mariko Ogawa
CNRS-The University of Tokyo Event : Women in Science, 2024年10月
- ◆Women' s Shelters in Japan - the support system of domestic violence victims
Mariko Ogawa
JICA Gender Mainstreaming Policies for Government Officers, 2024年9月, 招待あり
- ◆Toward gender equity : Initiatives and challenges of #WeChange Utokyo
Mariko Ogawa
International Alliance of Research Universities (IARU) Annual Gender Group Meeting, 2024年9月

その他研究業績

- ◆東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の実践と効果検証の報告
安東明珠花, 久保京子, 中野円佳, 小川真理子, 伊藤たかね
九州大学「ポリモルフィア～ Polymorfia（10）91-99, 2025年3月
- ◆(読書)婦人相談員物語=村本邦子、松本周子著／歴史と内実を描く証言集
小川真理子 公明新聞 書評 2025年2月3日付, 招待あり
- ◆フェミニスト経済学とローカリティー—移動の自由と生き方の幅
日本フェミニスト経済学会大会座長 趣旨説明
小川真理子、大野恵理 経済社会とジェンダー（15）5-9, 2024年8月31日, 招待あり
- ◆なぜ「婦人相談員」の待遇は改善しないのか：8割が非正規雇用という現実—
小川真理子 女も男も（143）66-71, 労働教育センター, 2024年6月10日, 招待あり

小川 真理子

OGAWA Mariko

■ 報道・メディア掲載

- ◆「日本人と東大」第2回「翼と壁～女子学生2割の壁～」, NHKEテレ特集シリーズ, 2025年3月29日
- ◆「女性相談支援員の待遇改善急げ 研究者が調査結果」しんぶん赤旗, 2025年3月21日
- ◆「女性相談支援員の厳しい実態 なぜ非常勤8割? 困難な立場の女性を支える仕事の裏で…」NHK首都圏ネットワーク記事, 2024年11月8日
- ◆「女性相談支援員と出会って新たな人生が」NHK総合「首都圏ネットワーク」, 2024年11月8日
- ◆「女性相談支援員の待遇問題」2024年10月1日, NHK総合「首都圏ネットワーク」

■ その他教育・社会貢献活動

[非常勤講師]

東北大学 ジェンダー共創社会
明治薬科大学 総合人文社会科学

[その他]

令和6年度内閣府民間団体交付金選定審査委員会（座長）
内閣府第6次男女共同参画計画策定専門調査委員会 WG 委員
東京都板橋区男女平等参画審議会（会長）
東京都渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する会議（会長）

金 智慧

KIM Jihye

DEI共創推進戦略室
特任研究員

専門領域

臨床心理学／文化人類学／
ジェンダー・セクシュアリティ

■ 主な研究テーマ

性的マイノリティの精神的健康と心理支援
東日本大震災・原発事故被災者への支援

■ 共同研究・競争的資金等の研究課題

LGBT当事者が大学において抱える困難とニーズに関する包括的研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
2022年4月 - 2025年3月 MCKAY EUAN, 金 智慧

■ 受賞

優秀演題賞, 呼吸停止による緊急訪問から死亡診断までの訪問看護師の実践, 文化看護学会
梅野華乃子, 首藤真由美, 稲葉千恵美, 金智慧, 鈴木勝己, 辻内琢也

■ 論文

PrEPが結ぶHIV陽性者との関係性——PrEPを使用する人々の語りから
首藤真由美, 金智慧, 辻内琢也 質的心理学研究(24) 329-348 2025年3月

■ 講演・口頭発表等

- ◆呼吸停止による緊急訪問から死亡診断までの訪問看護師の実践
梅野華乃子, 首藤真由美, 稲葉千恵美, 金智慧, 鈴木勝己, 辻内琢也
文化看護学会第17回学術集会 2025年3月16日
- ◆日韓若手研究者による質的研究の展開—ボーダーを超えた協働の可能性を追求して—
伊藤哲司, 金智慧, 土本哲平, 杉浦彰子, ジョン・ジウォン、イ・ユニ
日本質的心理学会第21回大会 2024年10月19日

金 智慧

KIM Jihye

講演・口頭発表等

◆PrEP 薬を通してつながる人々：ピアサポートグループのエスノグラフィー
首藤真由美, 石井友恵, 金智慧, 鈴木克己, 辻内琢也
日本質的心理学会第 21 回大会 2024 年 10 月 19 日

その他教育・社会貢献活動

[非常勤講師]

医療人類学（早稲田大学）
現在 心の健康（立教大学）

切原 賢治

KIRIHARA Kenji

バリアフリー推進オフィス
副オフィス長 准教授

専門領域

障害者支援／精神医学

主な研究テーマ

障害者支援、精神医学

共同研究・競争的資金等の研究課題

◆ヒト予測機能の神経基盤の解明と応用に関する研究開発
日本医療研究開発機構 脳神経科学統合プログラム 2024 年 9 月～2030 年 3 月
切原賢治（研究開発分担者）

◆思春期における精神疾患のリスク形成過程の解明：脳波を用いた縦断研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）2022 年 4 月～2026 年 3 月
切原賢治（研究代表者）

論文

◆Tada M, Yagishita S, Uka T, Nishimura R, Kishigami T, Kirihara K, Koshiyama D, Usui K, Fujioka M, Araki T, Kasai K. From the Laboratory to the Real-World: The Role of Mismatch Negativity in Psychosis. Clin EEG Neurosci. 2025 Jan;56(1):60-71. doi: 10.1177/15500594241294188.

◆東京大学における視覚障害者のための先進的な就労支援の取り組み
中山仁史, 中津真美, 切原賢治, 熊谷晋一郎
日本ロービジョン学会誌 (24)104-107 2024 年 10 月

書籍等出版物

切原賢治：障害者差別解消法。永井良三シリーズ総監修，笠井清登，村井俊哉，内田裕之，近藤伸介，大島紀人編集：精神科研修ノート改定第 3 版。2024 年

講演・口頭発表等

◆予防精神医学および脳予測性におけるバイオマーカーとしてのミスマッチ陰性電位
切原賢治, 越山太輔, 西村亮一, 臼井香, 藤岡真生, 多田真理子, 荒木剛, 笠井清登
第 120 回日本精神神経学会学術総会, 2024 年 6 月 20 日, 札幌市

◆精神疾患における事象関連電位と脳予測性の研究 切原賢治.
第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024 年 10 月 26 日, 札幌市

切原 賢治

KIRIHARA Kenji

講演・口頭発表等

◆ 早期精神症の臨床神経生理学的研究

切原賢治.

第 27 回日本精神保健・予防学会学術集会, 2024 年 11 月 23 日, 東京.

◆ 演習・ゼミ形式授業における聴覚活用を主とする学生への補聴援助システムの活用例

香川龍仁, 中津真美, 松下真弓, 波多野比美子, 切原賢治

AHEAD JAPAN CONFERENCE 2024 2024 年 8 月 29 日

その他教育・社会貢献活動

日本生物学的精神医学会・評議員

日本統合失調症学会・評議員

久保 京子

KUBO Kyoko

ジェンダー・エクイティ推進
オフィス
特任研究員

専門領域

教育社会学／高等教育論

主な研究テーマ

自然科学系大学院生の研究機構

論文

◆ 大学院博士課程在学中に抱える困難の格差

中野円佳, 久保京子, 九鬼成美

第 76 回 日本教育社会学会 2024 年 9 月 13 日

◆ 理系女子はなぜ少ないのか

群馬大学教養科目「若者と社会」ゲストスピーカー 2024 年 7 月 3 日

その他教育・社会貢献活動

安東明珠花, 久保京子, 中野円佳, 小川真理子, 伊藤たかね「活動報告 東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の 実践と効果検証の報告」『ポリモルフィア』2025年3月 10巻 10: 91-99

中津 真美

NAKATSU Mami

バリアフリー推進オフィス
特任助教

専門領域

障害者支援／聴覚障害学／
コーダの心理社会的研究

主な研究テーマ

障害学生支援／障害教職員支援 コーダの心理社会的発達

共同研究・競争的資金等の研究課題

◆聴覚障害の親をもつ CODA の通訳役割に関する実態調査：ケアラーの観点から
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024 年 4 月 - 2027 年 3 月
中津真美

◆聴覚障害学生のセルフ・アドボカシー向上のための日本手話習得支援に関する研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024 年 4 月 - 2027 年 3 月
富田更紗, 中津真美, 下中村武

論文

東京大学における視覚障害者のための先進的な就労支援の取り組み
中山仁史, 中津真美, 切原賢治, 熊谷晋一郎
日本ロービジョン学会誌 (24)104-107 2024 年 10 月

書籍等出版物

第 14 章 社会・地域資源の活用と参加 (分担執筆)
中川尚志・廣田栄子編 最新言語聴覚学講座 聴覚障害学
医歯薬出版 2025 年 2 月 (ISBN: 9784263270745)

講演・口頭発表等

◆聴覚障害の親を持つ CODA の通訳役割に関する実態：ヤングケアラーの観点から
中津真美, 廣田栄子
日本リハビリテーション連携科学学会 第 26 回大会 2025 年 3 月 15 日

◆基礎講座「事例を通して考える聴覚障害学生支援—学生のニーズによりそうために—」
岩田吉生, 前原明日香, 吉川あゆみ, 中津真美
第 20 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 2024 年 12 月 8 日

◆コーダはどのように当事者になり、それを対象化し続けるのか—コーダがコーダを研究する
過程の探索— 中井好男, 中津真美
日本質的心理学会第 21 回大会 2024 年 10 月 20 日

◆演習・ゼミ形式授業における聴覚活用を主とする学生への補聴援助システムの活用例
香川龍仁, 中津真美, 松下真弓, 波多野比美子, 切原賢治
AHEAD JAPAN CONFERENCE 2024 2024 年 8 月 29 日

◆視覚障害学生に対する仕組みの谷間を埋めるピア・サポート
星野正人, 片山実咲, 中津真美, 石垣琢磨
AHEAD JAPAN CONFERENCE 2024 2024 年 8 月 29 日

その他研究業績

季刊聴覚障害 2024 冬号 今、大学で—聴覚障害学生のサポート— 東京大学 中津真美
ジアース教育新社 2025 年 2 月

その他教育・社会貢献活動

日本リハビリテーション連携科学学会 常任理事, 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク
運営委員, 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク 相談対応事業委員

[非常勤講師] ユニバーサル・コミュニケーション論 (清泉女子大学)
形態別介護技術演習Ⅱ (神奈川県立保健福祉大学)

中野 円佳

NAKANO Madoka

DEI共創推進戦略室 副室長
准教授

専門領域

教育社会学/ジェンダー

■ 主な研究テーマ

ジェンダーと教育・メディア

■ 共同研究・競争的資金等の研究課題

- ◆博士課程修了者のライフコース選択の性差
日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2023 年 8 月 - 2025 年 3 月 中野円佳
- ◆国立大学における女性限定公募の検証 上野千鶴子基金 2023 年 9 月 - 2025 年 8 月 中野円佳

■ 書籍等出版物

教育にひそむジェンダー—学校・家庭・メディアが「らしさ」を強いる（ちくま新書 1834）中野円佳
筑摩書房 2024 年 12 月 9 日 (ISBN: 4480076638)

■ 講演・口頭発表等

- ◆教育とステレオタイプ/バイアス 中野円佳
JSAI 多様性・包摂推進委員会 ランチタイムウェビナー第 1 回 2024 年 10 月 3 日 招待有り
- ◆大学院博士課程 在籍中に抱える困難の性差 中野円佳, 九鬼成美, 久保京子
第 76 回日本教育社会学会 2024 年 9 月 13 日

■ その他研究業績

- ◆安東明珠花, 久保京子, 中野円佳, 小川真理子, 伊藤たかね「活動報告 東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の 実践と効果検証の報告」『ポリモルフィア』2025 年 3 月 10 巻 10: 91-99
- ◆中野円佳 「〈国際女性デー〉フジテレビだけではない 取引先からの性暴力問題：企業は告発にどう対応すべきか」Yahoo 2025 年 3 月 4 日
- ◆中野円佳 「なぜ政治に多様性が必要か」Voice (2024 年 11 月号) 124-149 2024 年 10 月
- ◆中野円佳 「〈国際女性デー〉フジテレビだけではない 取引先からの性暴力問題：企業は告発にどう対応すべきか」Yahoo 2025 年 3 月 4 日

■ その他教育・社会貢献活動

[非常勤講師]

コミュニケーション論（１）（２）（中央大学）, 教育と社会（立命館アジア太平洋大学）
マスコミ特殊講義Ⅲ メディアとジェンダー（成城大学）

[その他] 東京都文京区, 教育委員（2025 年 3 月 - ）

福田 和子

FUKUDA Kazuko

■ 主な研究テーマ

ジェンダー、公衆衛生、性と生殖に関する健康と権利

■ 受賞

リプロダクティブヘルスアワード 2024 特別賞 SRHR 賞

■ その他研究業績

「思春期学」Vol. 43、NO.1 号
「若者にやさしい「ユースフレンドリー」なケア提供のためのワークショップ」

Media

2024年度のメディア掲載

新聞

掲載年月日	新聞社名	題名
2024.2.8	毎日新聞	毎日新聞 DEI 宣言 格差や孤立なき社会に
2024.3.24	日本経済新聞	東京大学、学内の多様性向上へ新組織 女性や障害者支援
2024.5.1	神奈川新聞	神奈川新聞社DEI宣言2024 メディアがDEI宣言を出す意義とは 東大・林香里副学長に聞く
2024.5.2	読売新聞	多様性推進 東大にセンター…女性や障害者支援、研究も
2024.8.20	読売新聞	理工系入試に「女子枠」続々 多様なキャリアパス示す 東京大 林香里理事・副学長
2024.9.2	朝日新聞	子連れ出張、大学はOK！ 学会参加「ヘトヘト」でも「研究に収獲」
2024.9.23	日本経済新聞	「女子が大学院？」偏見なくせ 東大や東北大 実態可視化、啓発急ぐ
2024.11.24	東大新聞	「普通」を疑い、疑問を見過ごさない ジャーナリスト&東大教員としてジェンダー平等に取り組む 中野准教授インタビュー
2024.12.2	朝日新聞 Think キャンパス（広告）	女性教員の比率を25%に。「多様性包摂共創センター」 開設で東京大学の男女共同参画への取り組みが新たなステージへ
2024.12.5	日本経済新聞	東大、無意識の偏見でイベント 脚本家・吉田氏と議論
2024.12.20	日本経済新聞	東大も挑むバリアフリー 全大学で障害学生1.8% どもり 教育進化論 解き放て潜在力（4）
2024.12.29	神奈川新聞	朝ドラ「虎に翼」対談（上） 分断と否定せず、女性への逆風を可視化
2024.12.30	神奈川新聞	朝ドラ「虎に翼」対談（下） 「立場の違い」どう乗り越える？
2025.2.11	共同通信	「女子なのに東大？」「研究に向いていない」。 東京大に今も残るジェンダーギャップ。 虎に翼の脚本家は「言葉の逆風」をどう感じたか

TV

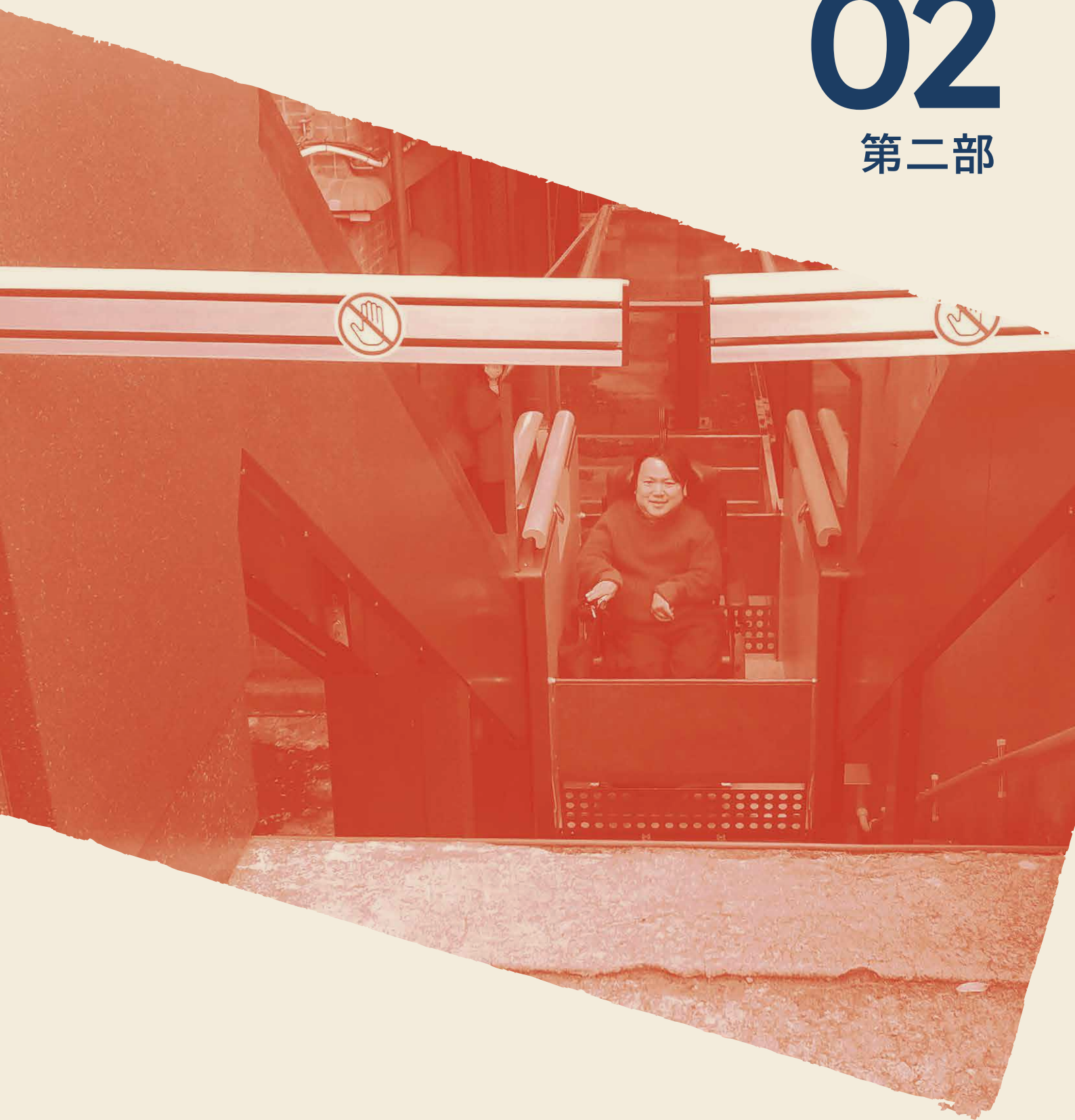
掲載年月日	番組名	タイトルなど（出演者）
2024.5.27	Abema Prime	#アベプラ①東大に女性少ない…声を上げる想い／ 裁判と個人情報（出演者：中野円佳、安東明珠花）
2024.6.1	NHK	東京大学“言葉の逆風”ポスターを掲示 男女比の偏りは正へ （コメント：中野円佳）
2025.3.12	日テレ NEWS NNN	また「2割の壁」東大合格者の女子比率が停滞… 女子枠の検討は？批判殺到の女子向け家賃補助が「逆差別」 ではない理由【国際女性デー】
2025.3.29	NHK ETV 特集	シリーズ 日本人と東大 第2回 壁と翼～“女子学生2割”の問いかけ～

雑誌

掲載年月日	媒体名	題名
2024.5.27	ELLE 1月号	ELLE Active! vol.46 「なぜ東京大学には女性が少ないの？」 の問いでジェンダーバイアスを揺さぶる」

02

第二部



DEI研究部門

Seminar

ランチセミナーレポート

IncluDE ランチセミナーは、2024 年 4 月に IncluDE が設立されたことに伴い、DEI 共創推進戦略室で月 2 回程度企画しているセミナーです。他部局と兼任している研究部門の教員や専属メンバーが、DEI 関連領域の最前線の研究内容を報告し合う場となっています。2024 年度には全 15 回、41 名が発表をしました。バリアフリー、ジェンダー・セクシュアリティに加え、国籍・民族、宗教や言語などの多様なマイノリティについて研究している教員らが集まり、ざっくばらんな意見交換を行うことで、実践面でも研究面でも、新たな知見が生まれることを目指しています。

第 1 回

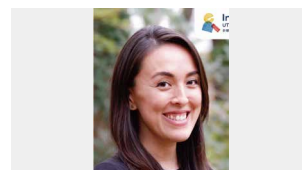
7.22[月]



共同創造の大切さと
実現上の課題
熊谷 晋一郎



セミナー
瀬地山 角



Women in Science +
DEI Policies in classroom
多田 恵里沙

第 2 回

8.9[金]



採用と雇用管理に
おける格差の生成と正当化
永吉希久子



政治学と多様性
前田 健太郎



大学の DEI に
これまでのキャリアを生かす
中野 円佳

第 3 回

8.27[火]



Critical Applied Linguistics
+ Mixed-Heritage Identity
サイ・オーロラ



セミナー
笠井清登



当事者の声を尊重する支援
—女性支援の現状と課題—
小川真理子

第 4 回

9.12[木]



移民の母親の生活世界からみる
日本社会と教育の課題
額賀美紗子



セミナー
石垣琢磨



教育の国際化と多様性
小原優貴

第 5 回

9.24[火]



知と権力、制度

隠岐さや香



イスラム研究と多様性

小野仁美

人々の協働と地域システムで
インクルーシブな学びと働きを
生み出す

近藤 武夫

第 6 回

10.4[金]

教育・仕事・家族の関係の
組み換えを目指す

本田由紀



エビデンスに基づく DEI 推進

山口慎太郎



障害学生の理工系分野参加支援

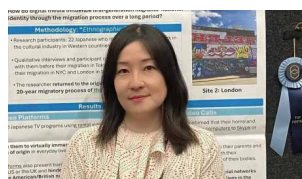
並木重宏

第 7 回

10.21[月]

移民政策からみる
日本社会の停滞と変化

高谷幸

フィールド調査と家族のケアを
いかに両立するか

藤田結子

当事者の声を尊重する支援
—女性支援の現状と課題—
安東明珠花

第 8 回

11.8[金]



Well-being Engineering

二瓶美里



Asdf

吉本英樹

第 9 回

11.28[木]

ディスアビリティの研究から
DEI の実践へ

星加良司

東京大学のバリアフリー支援
(精神障害・発達障害)

切原賢治

第 10 回

12.13[金]



神経多様性が包摂される社会に向けて
綾屋紗月



SOGI の多様性と包摂：
インクルーシブな大学づくり
金智慧

第 11 回

12.24[火]



リカバリーカレッジと障害者ピア
サポート研修事業 Co-production
(共同創造) を通じて 宮本有紀



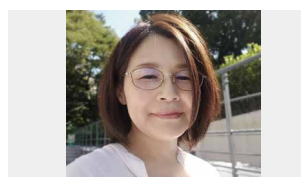
AI × 発達障害当事者研究
長井志江

第 12 回

1.10[金]



長時間研究文化とジェンダー
久保京子



バリアフリー推進オフィス活動紹介
ーバリアフリーの東京大学を目指して
中津真美

第 13 回

1.21[火]



日本の大学でフェミニストで
ある、ということ
清水 晶子



学生相談と DEI 推進
高野明

第 14 回

2.12[水]



教養学部における D&I
(D&I 部門) の展開
福永玄弥



防災分野からみた
DE&I に関する論点
大原美保

第 15 回

2.28[金]



見えづらい当事者ニーズから
建築環境を読み解く
松田雄二



ゲノム・遺伝の ELSI・RRI の
観点から多様性を考える
武藤香織

第 16 回

3.14[金]



テックバイアス・プロジェクト
ー社会連携講座における
DEI 教育の実施とその課題
田中東子



前期課程教育・理系の
研究室運営における合理的配慮
四本裕子

第 17 回

3.24[月]



美しい義足：
インクルーシブデザイン
実践事例としてのアスリート用
3D プリンター制義足の開発
山中俊治



科学技術と女性
横山広美

Publication list

研究部門／専属メンバーの
2024年度の研究業績・研究活動
(DEIに関するもの・自己申告)

【インクルーシブ教育を考える】【医学部教育におけるダイバーシティ推進】

#論文

東京大学医学部におけるダイバーシティ,インクルージョン, コ・プロダクションの学部教育

里村嘉弘、金原明子、大久保紗佳、杉本達哉、片岡朋恵、小西優歌、吉川 桜子、
木之下遼、末松万宙、高橋優輔、熊倉陽介、長谷川智恵、佐々木理恵、山口創生、
澤田宇多子、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎、笠井清登

医学教育55 (2): 121-127, 2024年4月

日本の女性相談支援員(旧名 婦人相談員)の現状～常勤と非常勤の比較

#論文

須賀朋子、小川真理子、安部郁子、川面充子、小口恵巳子、堀千鶴子、大貫雅代
小平悦子、柴田美代子、中村明美、日下田恵里

日本セーフティプロモーション学会学術誌17巻:2-7, 2024年4月

Longitudinal study of personal space in autism

#論文

Kosuke Asada , Hironori Akechi , Yukiko Kikuchi , Yoshikuni Tojo
Koichiro Hakarino , Atsuko Saito , Toshikazu Hasegawa , Shinichiro Kumagaya

Child neuropsychology 2024年4月

日本社会とポジショナリティ：

#書籍

沖縄と日本との関係、多文化社会化、ジェンダーの領域からみえるもの

池田緑、江原由美子、小川真理子、定松文、高橋哲哉、
玉城福子、知念ウシ、桃原一彦、仁科薫、山根俊彦

明石書店、2024年4月

両性具有者 khunthāをめぐるイスラーム法学説の形成

#講演・口頭発表等

ーハナフィー派とシャーフイー派の比較検討

小野仁美

日本中東学会第40回年次大会 2024年5月12日

Tablet-Based Cognitive and Eye Movement Measures as Accessible Tools for Schizophrenia Assessment: Multisite Usability Study

#論文

MROITA Kentaro , MIURA Kenichiro , TOYOMAKI Atsuhito , MAKINODAN Manabu
OHI Kazutaka , HASHIMOTO Naoki , YASUDA Yuka , MITSUDO Takako , HIGUCHI Fumihiro
NUMATA Shusuke , YAMADA Akiko , AOKI Yohei , HONDA Hiromitsu , MIZUI Ryo
HONDA Masato , FUJIKANE Daisuke , MATSUMOTO Junya , HASEGAWA Naomi
ITO Satsuki , AKIYAMA Hisashi , ONITSUKA Toshiaki , SATOMURA Yoshihiro
KASAI Kiyoto , HASHIMOTO Ryota

JMIR Mental Health 11: e56668 2024年5月30日

Pilot Study on Campus Social Workers in Student Support in Japan; Consideration of Needs and Strengths

論文

HOSONO Masahito , KANOU Shunsuke , NAKAZAWA Mimiko
NISHIGUCHI Yuki , **ISHIGAKI Takuma**

Synergy of Arts and Sciences 28(1), 51-63 2024年5月

Abnormal resting-state hyperconnectivity in schizophrenia: A whole-head near-infrared spectroscopy study

論文

SAKAKIBARA Eisuke , **SATOMURA Yoshihiro** , MATSUOKA Jun , KOIKE Shinsuke
OKADA Naohiro , SAKURADA Hanako , YAMAGISHI Mika , KAWAKAMI Norito , KASAI Kiyoto

Schizophrenia research 270: 121-128 2024年6月19日

研究の共同創造を通じた学会の組織変革： 日本統合失調症学会が取り組む社会実験

#講演・口頭発表等

福田正人、山口創生、**笠井清登**、村井俊哉

第120回日本精神神経学会学術総会、2024年6月21日

卒前から卒後へのシームレスな医学教育に精神医学が真に役立ちうるに は

#論文

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人
熊谷晋一郎、宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、**笠井清登**

精神神経学雑誌 S479、2024年6月

Frontal pole-precuneus connectivity is associated with a discrepancy between self-rated and observer-rated depression severity in mood disorders: a resting-state functional magnetic resonance imaging study

#論文

KAWAKAMI Shintaro , OKADA Naohiro , **SATOMURA Yoshihiro** , SHOJI Eimu , MORI Shunsuke
KIYOTA Masahiro , OMILEKE Favour , HAMAMOTO Yu , MORITA Susumu , KOSHIYAMA Daisuke
YAMAGISHI Mika , SAKAKIBARA Eisuke , KOIKE Shinsuke , **KASAI Kiyoto**

Cerebral cortex 34(7) 2024年7月3日

障害者の安全に配慮した実験室環境の検討

#講演・口頭発表等

並木重宏、加藤完治、中田正仁

第42回大学等環境安全協議会総会・研修発表会講習会、2024年7月19日

Lower plasma betaine levels in men at clinical high risk for psychosis: Findings from a metabolomics investigation

#論文

ASAI Tatsuro , Ikegame Tempei , **SATOMURA Yoshihiro** , KUMAGAI Eureka , MINAMI Takuto
MORITA Susumu , Kiyota Masahiro , SHOJI Eimu Shoji , ZHAO Zhilei Zhao , KANEHARA Akiko
TADA Mariko , OKADA Naohiro , KOIKE Shinsuke , BUNDO Miki , IWAMOTO Kazuya ,
KASAI Kiyoto, JINDE Seiichiro

Schizophrenia research 271: 281-282 2024年7月27日

医学教育におけるD&I、および医学におけるD&I教育 ダイバーシティとインクルージョンの医学部学部教育の取り組みと障害のある医学生の実態

#論文

里村嘉弘、金原明子、長谷川智恵、佐々木理恵、高橋優輔、宮本有紀、大島紀人、熊谷晋一郎
宇野晃人、熊倉陽介、柳下祥、笠井清登

医学教育 55:99、2024年7月

視覚障害学生に対する仕組みの谷間を埋めるピア・サポート

#講演・口頭発表等

細野正人、片山実咲、中津真美、石垣琢磨

AHED JAPAN CONFERENCE 2024 2024年8月29日

演習・ゼミ形式授業における聴覚活用を主とする 学生への補聴援助システムの活用例

#講演・口頭発表等

香川龍仁、中津真美、松下真弓、波多野比美子、切原賢治

AHED JAPAN CONFERENCE 2024 2024年8月29日

多様性の力: インクルーシブな研究環境を目指して

#講演・口頭発表等

並木重宏

最先端科学・分析システム&ソリューション展、一般社団法人日本分析機器工業会・
一般社団法人日本科学機器協会共催、2024年9月4-6日

大学院博士課程 在籍中に抱える困難の性差

#講演・口頭発表等

中野円佳、九鬼成美、久保京子

第76回日本教育社会学会 2024年9月13日

Unlearning linguistic shame among mixed-heritage Japanese learners through collective healing and storytelling

#講演・口頭発表等

TSAI Aurora

Linguistic Seminar Series, University of Texas Rio Grande Valley 2024年9月17日

地域社会における子ども食堂の発展 —実践者の役割とコミュニケーションの視点から

#講演・口頭発表等

大野はな恵、早川公、近藤武夫

第20回 日本子ども学会学術集会 2024年9月21日

Toward gender equity : Initiatives and challenges of #WeChange UTokyo

#講演・口頭発表等

小川真理子

International Alliance of Research Universities (IARU) Annual Gender Group Meeting 2024年9月25日

女性相談支援員（旧名 婦人相談員）は「非正規」のままで良いのか

#論文

須賀朋子、小川真理子、川面充子

酪農学園大学紀要 49(1): 27-32, 2024年10月15日

日韓若手研究者による質的研究の展開

#講演・□頭発表等

ーボーダーを超えた協働の可能性を追求してー

伊藤哲司、金智慧、土本哲平、杉浦彰子、ジョン・ジウォン、イ・ユニ

日本質的心理学会第21回大会 2024年10月19日

**学習や研究に関する活動をLD等のある人にとって
アクセス可能にするには？**

#講演・□頭発表等

近藤武夫、濱地音安、堀口里奈、入山 満恵子、丹治 敬之、森脇 愛子、森山 貴史

一般社団法人日本LD学会第33回大会 2024年10月19日

**コードはどのように当事者になり、それを対象化し続けるのか
ーコードがコードを研究する過程の探索ー**

#講演・□頭発表等

中井好男、中津真美

日本質的心理学会第21回大会 2024年10月20日

**The Operation of ‘Kodomo Shokudo’ and Its Impact on Local
Communities: An Analysis of a Practitioner’ s Leadership and
Communication**

#講演・□頭発表等

ONO Hanae , HAYAKAWA Ko , KONDO Takeo

The 55th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference 2024, 25 October 2024

食をめぐる階層とジェンダーの交差

#論文

**ー インテンシブ・フィーディングと手作り規範の比較から
（特集 家族研究におけるインターセクショナリティの視点）**

藤田結子

家族社会学研究 36(2) 2024年10月

東アジアにおける「LGBT」の主流化と反ジェンダー運動

#特集論文

福永玄弥

産業精神保健32(4): 323-326, 2024.10

東京大学における視覚障害者のための先進的な就労支援の取り組み

#講演・□頭発表等

中山仁史、中津真美、切原賢治、熊谷晋一郎

日本ロービジョン学会誌 24: 104-107 2024年10月

Mixed-Heritage Individuals and Systemic Risk During Negotiation of Identity

#論文

TSAI Aurora , STRAKA Brenda , KIMURA Daisuke

Journal of Language, Identity & Education, VOL. 23, NO. 6, 895-909 2024年11月

「信じたい」という心理

#書籍

石垣琢磨

金剛出版 2024年11月

教育にひそむジェンダー ー学校・家庭・メディアが「らしさ」を強いる

#書籍

中野円佳

ちくま新書 2024年12月9日

ハディースにみる生殖と性別 ー古代ギリシア医学との類似点をめぐる考察

#講演・口頭発表等

小野仁美

2024年度九州史学会「イスラム文明部会」シンポジウム「前近代イスラーム史のなかのセクシュアリティと医学知識」 2024年12月15日

Protective role of school climate for impacts of COVID-19 on depressive symptoms and psychotic experiences among adolescents: a population-based cohort study

#論文

YAMAGUCHI Satoshi , DEVYLDER Jordan , YAMASAKI Syudo , ANDO Shuntaro
MIYASHITA Mitsuhiro , HOSOZAWA Mariko , BABA Kaori , NIMURA Junko
NAKAJIMA Naomi , USAMI Satoshi , KASAI Kiyoto , HIRAIKAWA-HASEGAWA Mariko
NISHIDA Atsushi

The 55th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference 2024, 25 October 2024

Chapter 2: Rationalizing Foodwork at Home: Coping Strategies and Social Stratification among Working Women with Children

#書籍

FUJITA Yuiko , NUKAGA Misako

[Key Texts for Japanese Sociology] Part1 Sociological Explorations in Contemporary Japan at Crossroads, SAGE Studies in International Sociology, January 2025

Fostering employee engagement and mental health: Impact of psychological safety, humble leadership, and knowledge sharing in the Japanese public sector

#論文

KUMAGAYA Shinichiro , MATSUO Akiko , YUI Naomi , AYAYA Satsuki , KAWAHARA Takuya
KASHIWABARA Kosuke , KOTO Goro , KAMIOKA Harue

International Review of Public Administration 2025年2月18日

性／生をめぐる闘争—台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治

#書籍

福永玄弥

明石書店 2025年2月20日

**「女性相談支援員（旧婦人相談員）の専門性と
公的相談支援の労働問題に関する研究」報告書**

#論文

小川真理子

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）（一般）、2025年2月

**ごきげんな地域づくりに向けた人間の「態」についての試論：
地域社会における「コーディネーター」をめぐる展開と今後の展望**

#論文

早川公、大野はな恵、近藤武夫

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要第2号, 2025年2月28日

**第14章 社会・地域資源の活用と参加
「1. 社会福祉サービスの利用」**

#書籍

中津真美

『最新言語聴覚講座 聴覚障害学』医歯薬出版株式会社 2025年2月

イスラーム法研究入門

#書籍

柳橋博之、小野仁美、狩野希望、早矢仕悠太、堀井聡江

成文堂 2025年3月10日

**聴覚障害の親をもつCODAの通訳役割に関する実態：
ヤングケアラーの観点から**

#講演・口頭発表等

中津真美、廣田栄子

日本リハビリテーション連携科学学会 第26回大会 2025年3月15日

**Development of a New Self-Rating Tool for Assessing Work
Capability in Individuals with Mental Disorders and/or
Intellectual Disabilities: The Revised Mini-ICF-App-S (RMIA-S)
and its Psychometric Properties**

論文

AOKI Sayaka , MATSUKIYO Ayumi , KONDO Takeo

Journal of Vocational Rehabilitation, 23 March 2025

**From grassroots to policy: Kodomo Shokudo(Children's
Cafeterias) in Japan as an inclusive place for everyone**

#講演・口頭発表等

ONO Hanae , HAYAKAWA Ko , KONDO Takeo

5th Global Conference of Children and Youth, 27 March 2025

米国の医学教育における肢体不自由者への合理的配慮

#論文

並木重宏

総合リハビリテーション 53 (3): 249-258、2025年3月

**医学・医療領域の共同創造に向けた組織変革：
東京大学医学のダイバーシティ教育研究センターの設立と取り組み**

#論文

里村 嘉弘、金原 明子、笠井 清登

精神神経学雑誌127(1): 24-31、2025年

03

第三部



DEI実践部門



IncluDE
ジェンダー・エクイティ推進オフィス
Office for Gender Equity

2024 Annual Report

2024年度 報告書

ジェンダー・エクイティ推進オフィス報告書

目次

I. 2024年度ジェンダー・エクイティ推進オフィスの概要	2
1. オフィス長挨拶.....	2
2. ジェンダー・エクイティ推進オフィス体制.....	3
3. ジェンダー・エクイティ推進オフィスの各部会の概要及び 2024 年度の取組.....	4
4. ジェンダー・エクイティ推進オフィスのその他の取組.....	8
II. UTokyo 男女⁺協働改革 #WeChange の 2024 年度報告書(簡易版)	13
1. UTokyo 男女 ⁺ 協働改革 #WeChange の概要.....	13
2. 本事業の実施体制.....	13
3. 男女 ⁺ 協働改革への基盤整備—マジョリティ側の意識改革—に関する取組.....	14
4. 院生からシニアまでのシームレスな女性研究者キャリアアップに関する取組.....	19
5. 女性教員の加速的増加の実現に関する取組.....	21
6. 研究機関・企業の視察と調査、情報収集.....	24
7. 情報発信.....	25

I. 2024年度ジェンダー・エクイティ推進オフィスの概要

1. オフィス長挨拶

ジェンダー・エクイティ推進オフィス
オフィス長 田野井慶太郎



近年、教職員や学生が育児や家庭とキャリアを両立できる環境づくりの重要性が、これまで以上に高まっています。特に、産休・育休からの円滑な復職や育児との両立は、キャリア初期の研究者にとって大きな課題であり、なかでも女性研究者が直面する困難は深刻です。家事・育児の負担が女性に偏りがちな現状は、女性研究者のキャリア形成に遅れをもたらし、ひいてはアカデミア全体の持続的発展を阻害する要因となっています。この課題は、個人や部局にとどまらず、大学全体として取り組むべき喫緊の課題です。

同時に、女性の活躍の場の裾野を広げるための取組も不可欠です。東京大学の学部における女性学生の割合は、過去 20～30 年にわたりおおむね 20%前後で推移しており、大きな変化が見られていません。これは、そもそも東京大学を志望する女子中高生の数が限られていることに起因しています。こうした現状を踏まえ、私たちは、女性やその他のマイノリティが学び、働きやすい環境を整備するとともに、東京大学の魅力を中高生に広く伝える取組を強化してまいります。

東京大学は、2022 年 10 月に JST(科学技術振興機構)の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に採択されました。これを受けて、「UTokyo 男女協働改革 #WeChange」プロジェクトを立ち上げ、以下の 3 本柱に基づく取組を展開しています。

1. マジヨリティ層の意識改革
2. キャリア形成に向けたスキルアップ支援
3. 女性教員の積極的な雇用促進

このプロジェクトの実行主体である本オフィス(ジェンダー・エクイティ推進オフィス)には、東京大学の各部局から教職員が参画し、各部局の多様な実情を汲み取った上で、全学的な支援策を立案・実施しています。多様な視点を集約し、すべての教職員・学生が安心して働き、学び、活動できる環境づくりを目指しています。特に、事務職員を含む職員についても、働きやすく、マイクロアグレッションのない環境を実現し、ワーク・ライフ・バランス(WLB)の改善を推進することは、研究・教育活動を支える基盤の強化につながる重要な課題と認識しています。

2. ジェンダー・エクイティ推進オフィス体制

東京大学では、多様な人材の育成と男女共同参画の推進を目的として、2006 年 4 月に総長直轄の「男女共同参画室」を設置し、以来、女性研究者支援をはじめとする様々な取組を着実に進めてきました。2024 年 4 月には、多様性包摂共創センター(IncluDE)の実践部門の中のオフィスとして改組され、バリアフリー推進オフィスと共に活動しています。ジェンダー・エクイティ推進オフィスは、林香里 理事・副学長、田野井慶太郎 オフィス長をはじめとするオフィス員、および専任スタッフによって構成されています(2024 年度のオフィス員名簿をご参照ください)。さらに、以下の 4 つの部会を設置し、教職員が連携しながら活動を行っています。

「ワーク・ライフ・バランス(WLB)推進部会」

「次世代育成部会」

「進学促進部会」

「ポジティブ・アクション(PA)推進部会」

年に 4 回開催される「ジェンダー・エクイティ推進オフィス会議」では、オフィス員のほか、ダイバーシティ推進課および関係部署の職員が一堂に会し、各部会の進捗報告や全学的な課題についての意見交換を行っています。

3. ジェンダー・エクイティ推進オフィスの各部会の概要及び

2024 年度の実施

ここでは、ジェンダー・エクイティ推進オフィスの下に設置されている 4 つの部会の設立の経緯や実施、2024 年度の実施をご紹介します。

3.1 ワーク・ライフ・バランス推進部会

3.1.1 設立の経緯

ワーク・ライフ・バランス推進部会の前身は、2006 年に男女共同参画室の下に設置された勤務態様部会で、育児等の環境の整備や女性研究者を増やすための支援策の検討を行いました。その後、2016 年にワーク・ライフ・バランス推進部会に改称され、東京大学全体のワーク・ライフ・バランスの意識を啓発するとともに、業務や研究以外の役割も担う構成員に対して理解のある職場環境を創造することを目的として各種事業を展開しています。ワーク・ライフ・バランス推進部会では、3.1.2 の①から⑤に示している実施を行っています。

3.1.2 ワーク・ライフ・バランス推進部会の実施

- ① 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定及び実施(2005 年度～)
- ② ワーク・ライフ・バランス支援ハンドブックの作成及び改訂(2008 年度～)
- ③ ワーク・ライフ・バランス支援のための研究者サポート要員配置助成(2016 年度～2024 年度)
- ④ 子の出張帯同費用の支給に関する制度及び運用ルールの整備(2023 年度～)
- ⑤ ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース(2024年度～)

3.1.3 2024 年度の実施

① 2024年度は、104件の「研究者サポート要員配置助成」(出産・育児・介護等で研究時間の確保が困難な教員への技術補佐員等の雇用経費の支援)を実施しました。

② 2023 年度に試行的に実施した「研究リーダー育成コース」の実績を踏まえて、2024 年度には、「研究リーダー育成コース」を「ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース」(以下、「スキルコース」と記す)に名称を変更し、学内での参加者募集を行い本格的に実施しました。2023 年度の試行に基づいてコース(表 1)を設計、学内での参加者募集を行い 2024 年度は約 100 名が参加しました。2024 年のコース運営で得られた運営上の知見を活かし、システム開発企業に委託する形で、コース参加者が利用するア

アプリケーション(ポータル機能・執筆時間の記録などを搭載)の開発を実施しました。

表 1 スキルコース概要

プログラム内容	実施日・期間
ライティング・チャレンジ	全 4 回(6・9・11・2 月)
研究費獲得セミナー	全 3 回(7 月(2 回)・10 月)
ネットワーク・マッピング・ワークショップ	全 2 回(7 月・12 月)
ネットワーキングイベント	全 1 回(9 月)

3.2 進学促進部会

3.2.1 設立の経緯

進学促進部会は、東京大学の女性学生数を増やすことを目的とし、2006 年に男女共同参画室の下に設置されました。2007 年度より 3.2.2の①から⑤に示している、主に女子中高生向けのイベントや広報などを企画、実行しています。

3.2.2 進学促進部会の取組

- ① 女子中高生のための東京大学説明会(2007 年度～)
- ② 女子中高生向け PR 冊子「Perspectives」作成・配布(2007 年度～)
- ③ 女子中高生のための進路選択支援イベントの部局開催補助(2009 年度～)
※2019年度以前は理系部局限定、2020年度より文系部局にも対象を拡大
- ④ 東京大学女性学生による母校訪問の実施(2010 年度～)
- ⑤ オープンキャンパス企画 女子中高生のための東京大学説明会 mini(2021 年～)

3.2.3 2024 年度の主な取組

- ① 女子中高生のための東京大学説明会開催

日時:2024年 10 月 20 日(日) 13:30-16:00

開催方式:オンライン(Zoom)

参加者数:53名(女子中高生(既卒生を含む)(戸籍上の性別は問わない))
5 名(保護者)

- ② 女子中高生のための進路選択支援イベントの部局開催補助

2024 年度 実施数 12 イベント

- ③ オープンキャンパス企画 女子中高生のための東京大学説明会 mini 開催

日時:2024 年 8 月 6 日

開催方式:オンライン(Zoom)

参加者数:326 名(女子中高生(既卒生を含む)(戸籍上の性別は問わない))

④ 女子中高校生向けPR冊子「Perspectives」2024年度版発行

⑤ 母校訪問

実施期間:2024年8月-2025年3月

訪問校数:24校

2025年度より、母校に限らず、本学説明会の実施を希望する中学校・高校へ在学女性学生を派遣する方式に変更することを決定しました。

3.3 次世代育成部会

3.3.1 設立の経緯

次世代育成部会は、東京大学在校生のネットワーク作りを目的として、2021年に前男女共同参画室の下に設置されました。多様な学生が安心して集い、学ぶことのできるキャンパス作りの推進のため、3.3.2の①から④に示しているイベントや新入生向け動画の作成の取組を展開しています。また、学内の女性学生の活動を支援するために、授業料等免除の審査基準日に関する要望書の提出など、本学の学生が安心して学ぶことができる環境を目指した取組を実施しています。

3.3.2 次世代育成部会の取組

① 「UTokyo Women+学生ネットワークを作ろう！」の開催(2022年度～)

② 新入生向けガイダンス資料・動画の展開(2023年度～)

・新入生(学部生)向けガイダンス資料・動画の展開(2023年度～)

・新入生(学部生)向けガイダンス資料・動画の展開(英語版)(2023年度～)

・新入生(大学院生)向けガイダンス資料・動画の展開準備(2024年度～)

その他に下記の取組についても検討しています。

・女性等多様な学生のエンカレッジ策の推進

・多様性を尊重する姿勢を醸成するための学生への働きかけ

・多様な学生が安心して集い、学ぶことのできるキャンパスづくりの推進

3.3.3 2024年度の主な取組

① 「UTokyo Women+学生ネットワークを作ろう！」の開催

テーマ:大学院生時代のライフイベントをどのように乗り越えたか―経験者に訊いてみよう

日時:2025年2月27日(木)14:30-16:30

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール

参加者数:34名

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

3.4 ポジティブ・アクション推進部会

3.4.1 設立の経緯

ポジティブ・アクション推進部会は、積極的に本学の女性教員を増やすことを目的とし、2008年に前男女共同参画室の下に設置されました。3.4.2の①から⑦に示している、ネットワーキングイベント、行動計画策定、女性人事加速策等の取組を行っています。

3.4.2 ポジティブ・アクション推進部会の取組

- ① 「UTokyo Women⁺研究者ネットワークを作ろう！」の開催(2014年度～)
- ② 女性活躍推進法に基づく行動計画の策定及び実施(2015年度～)
- ③ 女性教員(教授・准教授)増加のための加速プログラム(2016年度～)
- ④ 女性教員フォローアップ・メンターシステムの実施(2016年度～)
- ⑤ 人事マネジメント支援プログラム(2022年度～)
- ⑥ 女性教員(助教・特任助教)増加のための加速プログラム(2024年度～)
- ⑦ 女性教員スタートアップ研究費支援、女性研究者研究スキルアップ支援(2017年度～2024年度)、リスタートアップ研究費支援(2018年度～2024年度)

3.4.3 2024年度の主な取組

- ① 「UTokyo Women⁺研究者ネットワークを作ろう！」の開催

日時:2025年2月7日(金) 10:30-12:00

場所:オンライン(Zoom)

参加者数: 約40名(東京大学に属する研究者(教員、研究員、大学院学生))

言語:日本語・英語

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

- ② 「次世代育成支援対策推進法」及び「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく東京大学一般事業主行動計画の策定(2024年4月1日、実施期間:2024年度～2027年度)

- ③ 女性教員(教授・准教授)増加のための加速プログラム

女性教員上位職(教授・准教授)を雇用(昇任を含む)する際の人件費を支援しています。2024年度も、2022年度、2023年度に続き、支援対象として6部局を決定しました。

- ④ 人事マネジメント支援プログラム

過去5年間に学外から女性教授・准教授を採用した実績を評価して、2024年度は7

部局に対して若手女性研究者雇用支援を行いました。

⑤ 女性教員(助教・特任助教)増加のための加速プログラム

2024 年度より若手教員の雇用支援を開始し、支援対象として 6 部局を採択しました。

⑥ 「女性教員スタートアップ研究費支援」(2024 年度支援件数:26 件)、および論文投稿、学会発表などの成果発表にかかる費用等の支援を行う「女性研究者研究スキルアップ支援」(2024 年度支援件数:64 件)を行いました。

4. ジェンダー・エクイティ推進オフィスのその他の取組

ここでは、ジェンダー・エクイティ推進オフィスのその他の取組をご紹介します。

4.1 学内 4 保育園の運営、企業主導型保育園

東京大学では、2008 年度より 4 つの全部局対象保育園(本郷けやき、白金ひまわり、駒場むくのき、柏どんぐり)を運営し、年度途中で復職・復学を希望する研究者や学生のお子さんの受け入れ等本学のニーズにあった保育サービスを提供しています。また、2007 年度より医学部附属病院が特定部局対象保育園(病院いちょう)を運営しています。学内保育園環境を更に充実させるため、2018 年度に企業主導型事業所内保育所(ポピンズナーサリースクール東大本郷さくら)を本郷キャンパス内に設置しました。

東大管轄保育園の特色は下記になります。

- ・一般の保育施設では入園優先度の低い学生のお子さんを積極的に受け入れる
- ・年度途中の復職に対応できるよう、毎月入園申請可能
- ・英語対応可能な保育士等の配置
- ・21 時まで延長保育対応

4.2 ベビーシッター利用育児支援事業の実施

東京大学は、子育て中の教職員を対象にベビーシッターサービス利用時の割引券を発行しています。本事業はこども家庭庁の委託を受け公益社団法人全国保育サービス協会が実施している「ベビーシッター派遣事業」を活用し、教職員(短時間を含む)の子に利用可能な割引券を配布しています。

対象:乳幼児又は小学校 3 年生までの児童

(健全育成上の世話を必要とする要件に該当する場合は、小学校 6 年生まで)

4.3 女子学生向けの住まい支援

東京大学は、教養学部前期課程に入学する、自宅からの通学が困難な女性学生のために2017年度より「女子学生向けの住まい支援」を開始しました。本学が提携する民間等の居室および本学目白台インターナショナル・ビレッジにおいて住まいに関する支援を行っています。

4.4 女性教員幹部養成コース

東京大学では、2022 年度に始動した女性リーダー育成施策「UTokyo 男女+協働改革 #WeChange」の一環として、女性研究者のキャリアアップを支援する「女性教員幹部養成コース」を実施しています。本コースは、幹部候補の女性教員を対象に、学内外のネットワーク構築やリーダーシップ研修を通じてキャリア形成を後押しするものです。2024 年 12 月には、「#WeChange 女性教員幹部養成プログラム ネットワーキングイベント」を開催し、学内各部局から 49 名の女性教員が参加しました。

日時:2024 年 12 月9日(木)16:00-20:30

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール

参加者数:49 名(本学女性教員)

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/769/>

ジェンダー・エクイティ推進オフィス名簿			2024 年 5 月 1 日	
	氏 名	部局名	職 名	担当部会等
理事・副学長	林 香里			—
副学長・センター長	伊藤 たかね	多様性包摂共創センター	特任教授	—
副学長	吉江 尚子	生産科学技術研究所	教授	WLB 推進部会長
副理事	松井 正一	本部		—
オフィス長	田野井 慶太朗	農学生命科学研究科・農学部	教授	—
副オフィス長	浅井 幸子	教育学研究科・教育学部	教授	次世代育成部会長
副オフィス長	小川 真理子	多様性包摂共創センター	特任准教授	WLB 推進

	小島 慎司	法学政治学研究科・法学部	教授	WLB 推進
	前田 健太郎	大学院公共政策学連携研究部	教授	進学促進
	細谷 紀子	医学系研究科・医学部	准教授	WLB 推進
	小林 英津子	工学系研究科・工学部	教授	進学促進
	佐藤 至子	人文社会系研究科・文学部	教授	PA 推進
	佐藤 薫	理学系研究科・理学部	教授	PA 推進
	榎本 有希子	農学生命科学研究科・農学部	准教授	進学促進
	山口 慎太郎	経済学研究科・経済学部	教授	次世代育成
	寺田 寅彦	大学院総合文化研究科・教養学部	教授	次世代育成
	植阪 友理	教育学研究科・高大接続研究開発センター	准教授	進学促進
	瀬戸口 留可	薬学研究科・薬学部	准教授	WLB 推進
	真鍋 祐子	東洋文化研究所	教授	PA 推進
	ティクシア アニエス 三田	生産科学技術研究所	准教授	進学促進
	川崎 雅裕	宇宙線研究所	教授	WLB 推進
	松田 巖	物性研究所	教授	PA 推進
	熊田 亜紀子	工学研究科・工学部	教授	PA 推進部会長
	石坂 香子	工学研究科・工学部	教授	次世代育成

	遠藤 利彦	大学院教育学研究科	教授	保育園担当
	後藤 由季子	薬学研究科・薬学部	教授	進学促進部会長
	近藤 絢子	社会科学研究所	教授	WLB 推進
	松山 桃世	生産科学技術研究所	准教授	次世代育成部会
	八島 崇	教育・学生支援部	部長	進学促進 次世代育成
	片山 達也	経営企画部	部長	－
	小野寺 昌勝	人事部	部長	WLB 推進、次世代育成、PA 推進
	齋藤 幸司	施設部	部長	－
	高橋 知裕	教育・学生支援部	入試課長	進学促進
	榎本 弘子	教育・学生支援部	学生相談支援課長	進学促進 次世代育成
	南 雅登	経営企画部	経営戦略課長	－
	増田 健司	経営企画部	ダイバーシティ推進課長	WLB 推進、進学促進 PA 推進、次世代育成
	小林 正樹	人事部	労務・勤務環境課長	WLB 推進
	泉田 勝	教養学部等	教務課長	進学促進
	中野 円佳	多様性包摂共創センター	特任助教	－
	安東 明珠花	多様性包摂共創センター	特任研究員	次世代育成
	久保 京子	多様性包摂共創センター	特任研究員	進学促進
〔総長補佐(ジェンダー・エクイティ推進オフィス担当)〕				

	李 正連	大学院教育学研究科	教授	—
	藤本 博志	大学院新領域創成科学研究科	教授	—
	山崎 俊彦	大学院情報理工系研究科	教授	—
	伊藤 恵理	先端科学技術研究センター	教授	—

Ⅱ. UTokyo 男女+協働改革 #WeChange の 2024 年度報告書 (簡易版)

東京大学は、文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」の新規取組機関に採択されたことを受けて、女性リーダー育成に向けた施策「UTokyo 男女+協働改革 #WeChange」を 2022 年 11 月に始動しました。2022 年度及び 2023 年度は、東京大学総長の下に設置された男女共同参画室を運営の主体として各事業を実施しました。2024 年度からは、同室が新設の多様性包摂共創センター内のジェンダー・エクイティ推進オフィスとして改組され、運営主体となっており、ジェンダー平等に向けての取組を引き続き実施しています。本報告書では、2024 年度の取組について記します。

1. UTokyo 男女+協働改革 #WeChange の概要

女性リーダー育成に向けた事業「UTokyo 男女+協働改革 #WeChange」においては、3 つの目標とそれらを達成するための 3 つの行動計画を設定しています(図1-1)。行動計画は相互に関連し、循環的に作用するように設計しています。

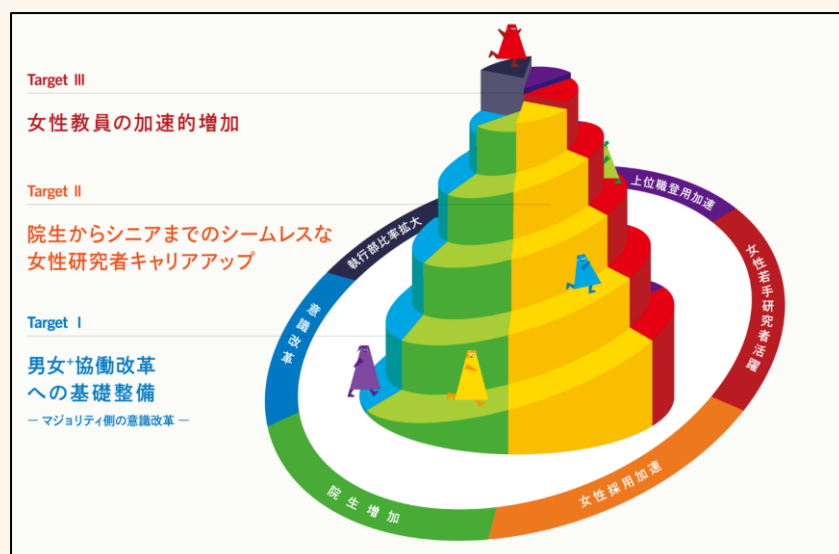


図1-1 UTokyo 男女+協働改革 #WeChange 事業の全体像

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/outline/>

2. 本事業の実施体制

本事業3年目の 2024年度の実施体制は、ジェンダー・エクイティ推進オフィスを運営の主体とし、事業項目ごとに 2024 年度事業の担当責任者をそれぞれ配置しました。女性教員の加速的増加事業の責任者であるダイバーシティ研究環境実現担当の副学長が、全体のとりま

とめも担う体制としています。また本施策を中心となって担うジェンダー・エクイティ推進オフィスおよび担当事務組織の体制を強化し、オフィス長、専任教員を引き続き配置しました(表2-1)。

表 2-1 2024年度の実施体制

事業項目	担当責任者
統括責任者	藤井 輝夫(総長)
機関全体の実施責任者	林 香里(理事・副学長)
実施体制及び支援体制の構築	松井 正一(副理事)
ダイバーシティ研究環境推進に関する各種調査とデータの可視化	小川 真理子 (多様性包摂協創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス副オフィス長)
ダイバーシティ研究環境推進のための広報活動	中野 円佳 (多様性包摂協創センターDEI 共創推進戦略室准教授)
男女 ⁺ 協働改革への基盤整備—マジョリティ側の意識改革	伊藤 たかね(多様性包摂協創センター長・副学長)
院生からシニア研究者までのシームレスな女性研究者キャリアアップ	田野井 慶太郎 (多様性包摂協創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィスオフィス長)
女性教員の加速的増加	吉江 尚子(副学長)

本事業の目的達成に向けて専門的かつ中立的な立場から助言を頂くため、2022 年度に学外の有識者 4 名からなる男女⁺協働改革アドバイザリーボードを設置し、助言をいただいています。

3. 男女⁺協働改革への基盤整備—マジョリティ側の意識改革—に関する取組

この節では、本事業の取組のうち、主に目標Ⅰ・行動計画Ⅰに該当する 2024 年度の実績を記しています。

3.1 教職員対象のジェンダー・ジャスティス研修

3.1.1 ジェンダー・エクイティ研修

2022 年度に、男女共同参画室のもとにジェンダー・ジャスティス研修ワーキンググループ(WG)を設置し、ジェンダー不平等の解消と是正実現のための基盤整備として、教職員を対象とする研修を実施する準備を進め、2023 年度より全教職員対象の「ジェンダー・エクイティ研修」を e-learning 形式で開始しました。

2024年度は、IncluDE 内に教育・研修プロジェクトを設置し、ワーク・ライフ・バランスをテ

ーマとする教材(「多様なケア労働への理解ある職場を目指して」、日本語版および英語版)を作成し、全教職員対象の研修を行いました。また、通常の教材では理解が難しい方に向けて、研修の内容を分かりやすく説明した「多様なケア労働への理解ある職場を目指して」やさしい版(日本語版のみ)を作成しました。あらかじめ定めた受講期間(2024 年 9 月 11 日-10 月 31 日)の受講者は 13,554 名で受講率は 77%でした。

「多様なケア労働への理解ある職場を目指して」

日本語版:<https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture 6259/>

英語版:<https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture 6259/?interface language=en>

やさしい版:<https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture 6261/>

3.1.2 役員研修

学内の経営層を含む上層部の D&I に関する基本的理解の増進や継続的な意識付けをおこなうこと、また、東京大学 UTokyo Compass の重要な柱としての D&I について理解を深め、意識を高めることを目的として、役員・部局長および事務管理職を対象とするセミナーを 2023 年度より年1回実施しています。昨年度に続いて 2024 年度も D&I 推進に関する役員研修を企画し、表3-1のとおり実施しました。

表3-1 役員研修

対象者	研修内容	実施日	参加者数
役員・部局長	「D & I への理解の深化・ 定着促進セミナー」	第一部 2024年 9 月 10 日 第二部 2025年 3 月 4 日	61 名
本部部長および 各 部 局 の 事 務 (部)長		2024年 9 月 27 日	52 名

3.1.3 学内ファカルティ・ディベロップメント(FD)

ジェンダー・エクイティ推進オフィス(男女共同参画室)では、これまでも学内のファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施してきました。2024 年度は、部局との調整の関係により FD の実施はありませんでしたが、「恋愛と暴力のさかいめ～学生への対応を学ぶ～」の FD 用教材を日英併記で作成し、2025 年度からの実施に向けて体制整備や準備を行いました。

3.2 学生対象のジェンダー・ジャスティス啓発

3.2.1 新入生向け啓発動画

本学構成員の意識改革の一環として、アンコンシャス・バイアスやマイクロアグレッションへの注意喚起等を主な内容とした新入生向けの動画の作製を進めています。新入生は、新入生学部ガイダンスにおいて、この動画を視聴しています。2024 年度は、大学院学生へも新入生向けガイダンス動画を展開しました。学内限定で各動画を東大 TV にて公開しています。

新入生(学部生)向けガイダンス資料・動画の展開(2023 年度～)

新入生(学部生)向けガイダンス資料・動画の展開(英語版)(2023 年度～)

新入生(大学院生)向けガイダンス資料・動画の展開準備(2024 年度～)

<https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture/6053/>

3.2.2 学術フロンティア講義「ジェンダーを考える」開講

2022 年度に学部 1・2 年生(前期課程)向けに開講したジェンダー関連の授業(学術フロンティア講義)を継続して開講しました。加えて、ジェンダー・エクイティに関する機運を高めるため、2022 年度及び 2023 年度の内容を書籍することとし、2025 年度の出版に向けて編集作業を行いました。

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/about/s0902_00061.html

3.2.3 オンライン集中講義「ジェンダード・イノベーション入門」開講（お茶の水女子大学・東京大学・東北大学連携）

お茶の水女子大学および東北大学との連携により、ジェンダード・イノベーションに関する学生向けオンライン集中講義を昨年度に続いて、2025 年 2 月の 4 日間で実施しました。2024 年度から教養学部 1・2 年生向けの正規の授業(学術フロンティア講義)となり、学生は 2 単位を取得できる形になりました。

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/news/2024_14_00003.html

3.3 「#言葉の逆風」キャンペーン

本学におけるマジョリティ側の意識改革及び本事業の取組への理解を得る目的で、女性活躍支援、D&I に関する啓発キャンペーン「#言葉の逆風」を実施しました。3.3.1 の学内へのポスター掲出やリーフレット配布(表 3-3)、および 3.3.2～4 のイベントを開催しました。

3.3.1 「#言葉の逆風」キャンペーン

表 3-3 #言葉の逆風ポスター掲出及びリーフレット配布について

期間	実施内容
2024 年 5 月 1 日～	「問い」のポスター提示:

5月20日	「なぜ東京大学には女性が少ないのか？」という問いを掲載したポスターを学内掲出 日本語: https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/591/ 英語: https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/en/news/356/
2024年5月20日-6月30日	「答え」のポスターの提示: 学生・研究者へのアンケートで寄せられた女性の意欲を削ぐ言葉を可視化したポスターを学内掲出 日本語: https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/512/ 英語: https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/en/news/304/
2024年5月20日-	キャンペーン説明リーフレット: 本キャンペーンおよび本補助事業について説明したリーフレットを学内で配布

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/512/>

3.3.2 ブックトークイベント「#言葉の逆風とどう向き合う

『なぜ東大は男だらけなのか』著者、矢口副学長と考える」

日時:2024年6月26日(木)13:15-14:30

場所:東京大学本郷キャンパス

参加者数:40名(学内構成員)

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/714/>

3.3.3 イベント「#言葉の逆風を考える—脚本家・小説家 吉田 恵里香氏 ×

東京大学 理事・副学長 林 香里 対談」

日時:2024年12月4日(木)13:30-15:00

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール

参加者数:110名(学内構成員、一般)

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/768/>

3.3.4 イベント「東京大学のジェンダーバランス不均衡を考える」

日時:2024年7月25日(木)

場所:東京大学本郷キャンパス(事後配信あり)

参加者数:60名

共催:東京カレッジ、多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

言語:英語

3.4 学内外向け啓発

学内外向け啓発では、3.4.1の女性研究者のライフイベントに関する国際イベント、3.4.2では国際女性デーに連動して、ライフイベントに関する学内学部学生・大学院学生向けイベントを開催しました。3.4.3、3.4.4では、本学のジェンダー・エクイティ推進の取組を発信しました。

3.4.1 CNRS(National Centre for Scientific Research)－UTokyo

イベント:Women in Science 開催

日時:2024年10月25日(金)日本時間 16:30-18:30(フランス時間 9:30-11:30)

開催方法:オンライン

参加者:140名 CNRSと東京大学の構成員(教職員、研究者、学生)

共催:CNRS Gender Equality Unit 及び東京大学多様性包摂共創センター

ジェンダー・エクイティ推進オフィス

言語:英語

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/733/>

3.4.2 国際女性デーイベント「大学院生時代のライフイベントをどう乗り越えたかー経験者に訊いてみよう」

日時:2025年2月27日(木)14:30-16:30

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール

参加者数:34名

主催:多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィス

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/811/>

3.4.3 Nature 誌「Male-dominated campuses belong to the past’: the University of Tokyo tackles the gender gap」掲載(2023年2月, 638号)

2025年2月11日に、林香里理事・副学長の寄稿「‘Male-dominated campuses belong to the past’: the University of Tokyo tackles the gender gap」がNature(vol.638)のWorld Viewに掲載されました。2024年5月から7月にジェンダー・エクイティ推進オフィスが実施した「#言葉の逆風」プロジェクト等の取組に関する論考になります。

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/796/>

3.4.4 「東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」の実践と効果検証の報告」『ポリモルフィア～Polymorfia』掲載

2023年度に実施した全教職員対象のジェンダー・エクイティ研修(テーマ「誰にでもある思

い込みと向き合う」)の実践と効果検証の報告が九州大学男女共同参画推進室発行『ポリモルフィア～Polymorfia vol.10』に掲載されました。

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/843/>

3.5 データの可視化

3.5.1 男女別研究者活躍データの可視化

科研費の採択件数等、女性研究者活躍のデータについて経営企画部 IR データ課等と連携して男女別研究者活躍データの分析を行いました。なお、個人の特定及び要配慮個人情報の取扱いを考慮するうえで公開方法について慎重な検討を行い、本学 HP での 2025 年度の公開に向けて、データ収集方法の整理や公開フォーマットの作成等の準備を進めました。

3.5.2 ジェンダー関連講義の可視化

2024 年度初めに、2023 年度に各学部で開講されたジェンダー関連授業の情報を集約し、集約した情報を一覧にして可視化しました。また、2024 年度に各学部で開講された(または 2025 年度に開講される予定の)ジェンダー関連授業の情報を 2024 年度末に集約し、集約した情報を一覧にして可視化しました。

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/about/publicity/index_00002.html

3.6 ワーク・ライフ・バランス推進サポート

3.6.1 研究者サポート要員配置助成

出産、育児、介護等により研究時間の確保が困難な者に対するワーク・ライフ・バランス支援として、2024年度は、104件の「研究者サポート要員配置助成」(技術補佐員等の雇用経費の支援)を実施しました。

4. 院生からシニアまでのシームレスな女性研究者キャリアアップに関する取組

この節では、本事業の取組のうち、主に目標Ⅱ・行動計画Ⅱに該当する 2024 年度の実績を記しています。

4.1 博士号取得者の女性割合

本事業では博士学位取得者の女性比率について、事業終了(2027 年度末)までに 30%とすることを掲げています。2024 年度のこの比率は 26.9%でした。

4.2 女性研究者スキルアップ支援

女性研究者のスキルアップ支援のため、本学着任直後の若手女性研究者(准教授以下)を対象とした「女性教員スタートアップ研究費支援」(2024 年度支援件数:26 件)、および本学に

所属する常勤の女性研究者((准教授以下(特任含む)))を対象とした論文投稿、学会発表などの成果発表にかかる費用等の支援を行う「女性研究者研究スキルアップ支援」(2024 年度支援件数:64 件)を行いました。

4.3 女性研究者キャリアアップ支援プログラム

2023 年度に試行的に実施した「研究リーダー育成コース」及び「女性教員幹部養成プログラム」の実績を踏まえて、2024 年度に、4.3.1から4.3.3 に示す取組を本格的に実施しました。

4.3.1 ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース

「研究リーダー育成コース」は、2024 年度から「ワークライフバランスを重視する研究者のためのアカデミアキャリア構築スキルコース(以下、「スキルコース」と記す)に名称を変更しました。2023 年度の試行に基づいて、コース(表 4-1)を設計、学内での参加者募集を行い、2024 年度は約 100 名が参加しました。2024 年のコース運営で得られた運営上の知見を活かし、システム開発企業に委託する形で、コース参加者が利用するアプリケーション(ポータル機能・執筆時間の記録などを搭載)の開発を実施しました。

表4-1 スキルコース概要

プログラム内容	実施日・期間
ライティング・チャレンジ	全 4 回(6・9・11・2 月)
研究費獲得セミナー	全 3 回(7 月(2 回)・10 月)
ネットワーク・マッピング・ワークショップ	全 2 回(7 月・12 月)
ネットワーキングイベント	全 1 回(9 月)

4.3.2 女性教員幹部養成コース

昨年度に続いて、今年度も幹部候補の女性教員を対象としたネットワーキングイベント「#WeChange 女性教員幹部養成プログラム ネットワーキングイベント」を開催しました。

日時:2024 年 12 月9日(木)16:00-20:30

場所:東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール

参加者数:49 名(本学女性教員)

主催:多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/news/769/>

4.3.3 女性研究者のエンパワーメント啓発「UTokyo Women+研究者ネットワークを作ろう！」

ジェンダー・エクイティ推進オフィスでは、女性研究者のキャリア形成及びネットワーク形成支援を主な目的として、2014 年度より開催している『UTokyo Women+研究者ネットワークを作ろう！』を 2024 年度も開催しました。本ネットワークイベントでは、性別や年齢にかかわらず多くの研究者(大学院学生を含む)の参加を歓迎し、大きな学内研究者ネットワークの実現を目指して展開しています。

日時:2025 年 2 月 7 日(金) 10:30-12:00

場所:オンライン(Zoom)

参加者数: 約 40 名(東京大学に属する研究者(教員、研究員、大学院学生))

言語:日本語・英語

主催:多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス

5. 女性教員の加速的増加の実現に関する取組

本学の女性教員比率の現状等を確認したうえで、主に目標Ⅲ・行動計画Ⅲに該当する女性教員増加に向けた各種施策、「部局女性人事加速 5 カ年計画」と意見交換会について記します。

5.1 現状と目標

本事業では、①事業期間中の女性教授・准教授の増加率を過去 10 年の 2 倍(それぞれ 0.88%/年、0.82%/年)とすること、また、②本事業終了時まで、女性教員比率を 25%とすることを目標に掲げています。2024 年度は、昨年度に続き、女性の上位職登用に直接関わる行動計画 III のみならず、先述した通り行動計画 I、II を含む本事業の取組全体を推進した成果として、女性教員増加の必要性に対する認識は学内に着実に浸透しました。また、5.2 で述べるような各種支援施策も推進、更新し、その結果として、女性教員の採用が加速しています。

①について、女性教授・准教授の増加率は 2022 年-2025 年の平均で、それぞれ 0.98%と 0.80%となり、教授については目標(0.88%/年)を超え、過去の平均値(0.44%)と比較しても、2.2 倍になり大幅に増加が加速しています。准教授は、目標(0.82%/年)に若干達していないものの、昨年度まで順調に加速してきているため、今後も計画を継続することで目標を達成してまいります(図 5-1、図 5-2)。

②について、女性教員の増加率(特任含む)の増加率は、2022 年-2025 年の平均 0.80%/年となり、過去 10 年と比して 約 1.6 倍となり、女性の採用は加速傾向にあります(図 5-3)。

本事業では、最終年度までに 女性教員比率 25%以上を目指すという高い目標を掲げてい

ます。2022 年 5 月からの3年間で、特任を含む女性教員比率(助手以上)は、16.7%から19.2%に増加しました(表 5-1)。目標を達成するために、上位職における女性の積極的な採用を行うと共に、助教をはじめとする若手教員の女性採用についても加速を推進する 5.2.2.、5.2.3の施策を講じました。

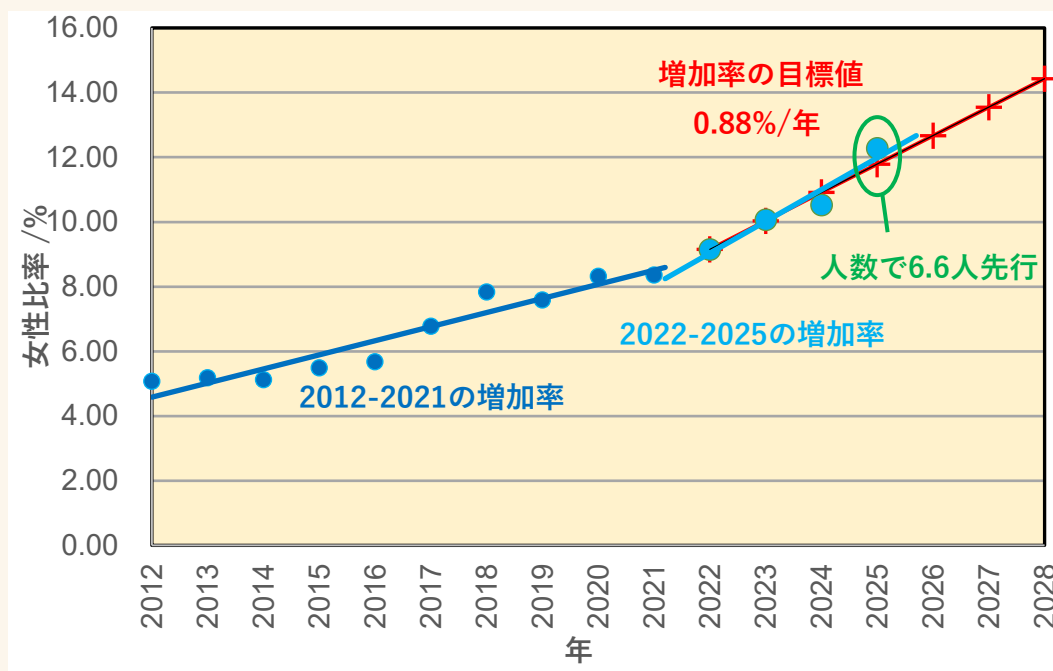


図 5-1 東京大学における承継教授の女性比率のグラフ

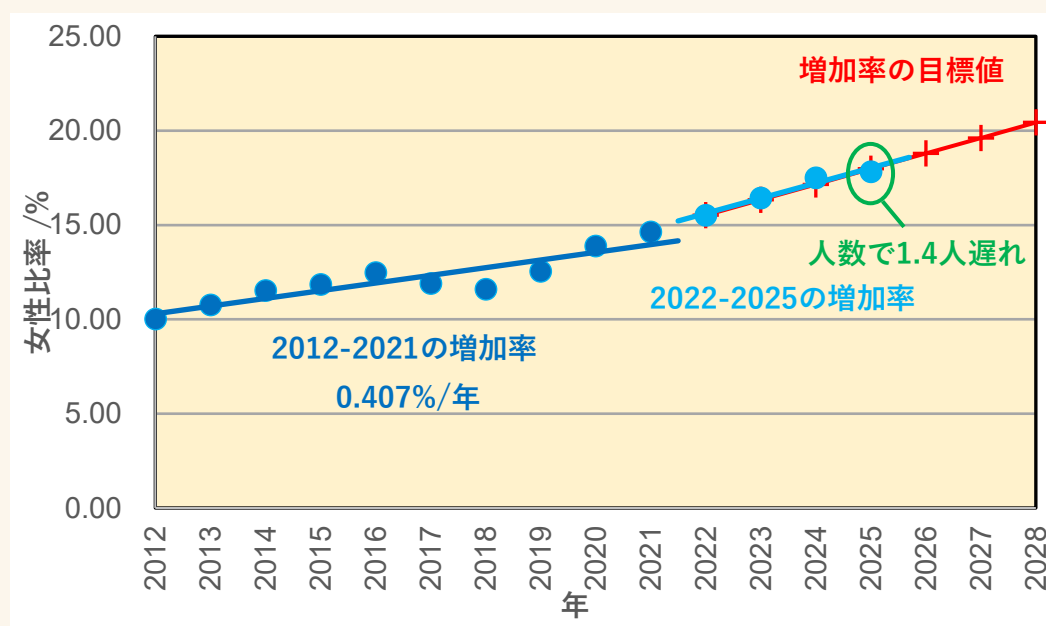


図 5-2 東京大学における承継准教授の女性比率のグラフ

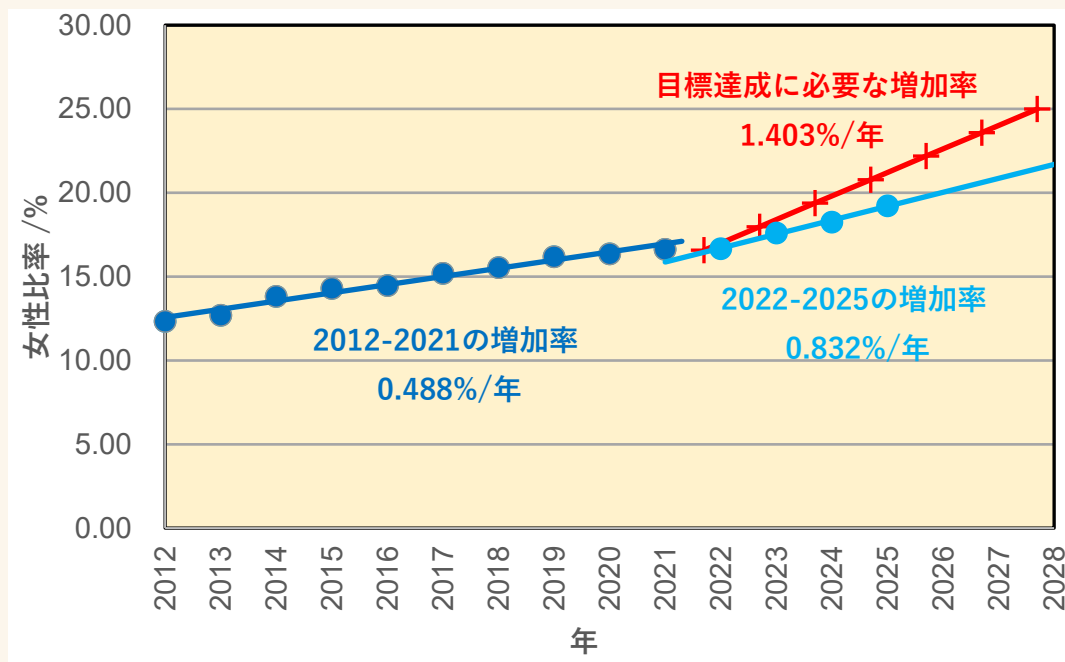


図 5-3 東京大学における教員(特任含む)の女性比率のグラフ

※2025 年度までの実績(濃青と淡青のプロット)は各年 5 月 1 日のデータに基づく。

一方、目標(赤のプロット)は、2022 年 3 月 31 日時点での実績に基づき、直線的に女性比率が増加して、2028 年 3 月 31 日に 25%を達成するための過程を記載。

表 5-1 東京大学の女性比率と本事業における目標値

	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025. 5.1	2027.3.31 (目標)
教員における女性比率※1	16.7%	17.6%	18.3%	19.2%	25.0%
教授における女性比率※2	9.2%	10.1%	10.5%	12.3%	14.5%
准教授における女性比率※2	15.5%	16.4%	17.5%	17.8%	20.4%

※1 教員の定義:教授、准教授、講師、助教・助手、卓越教授、特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教

※2 特任教員を含まない

5.2 女性人事を加速する各支援策

各部局において女性研究者採用加速を一段と推し進める呼び水とするため 5.2.1 から 5.2.3 の各支援策を実施しました。

5.2.1 女性教員(教授・准教授)増加のための加速プログラム

女性教員上位職(教授・准教授)を雇用(昇任を含む)する際の人件費を支援しています。2024 年度も、2022 年度、2023 年度に続き、支援対象として6部局を決定しました。

5.2.2 人事マネジメント支援プログラム

過去 5 年間に学外から女性教授・准教授を採用した実績を評価して、2024 年度は 7 部局に対して若手女性研究者雇用支援を行いました。

5.2.3 女性教員(助教・特任助教)増加のための加速プログラム

2024 年度より女性教員(助教・特任助教)を雇用する人件費を支援しています。2024 年度は支援対象として 6 部局を採択しました。

5.2.4 「部局女性人事加速 5 カ年計画」と意見交換会

第 4 期中期目標・中期計画における女性教員比率 25%を実現するために、2022 年に「5 カ年計画」を開始しました。東京大学を構成する 43 部局がそれぞれ女性研究者の比率向上にむけて意欲的な目標を設定し、5 カ年の計画を立て取り組んでいます。なお、2024 年度より新設部局の 4 部局においては 3 カ年計画を立て取り組んでいます。さらに、各部局の執行部メンバー(主に副部局長)と、担当の理事をはじめとするジェンダー・エクイティ推進オフィス主要メンバーで構成される意見交換会を設けて、東京大学が全学をあげて目標の実現に向けて計画を推進する体制を整えています。この意見交換会は定期的に開催され、部局を超えた議論が活発に行われています。2024 年度は、意見交換会を 6 回開催し、本部の人事支援策および部局における好事例などの共有、5 カ年計画を実行する上での疑問や困難などについて活発な議論を行いました。

2024 年度「部局女性人事加速 5 カ年計画」意見交換会の実施

第 1 回 2024 年 6 月 10 日、6 月 17 日

第 2 回 2024 年 9 月 30 日、10 月 4 日

第 3 回 2025 年 1 月 21 日、1 月 24 日

6. 研究機関の視察と調査、情報収集

本事業の目標の達成と世界標準のダイバーシティ環境づくりを実践するために、国内外で先進的な取組を行っている研究教育機関を視察し、情報交換を行うとともに、研修等に参加し情報を収集しました(表 6-1)。

表 6-1 研究機関の視察先

日程	訪問先	訪問者
2025 年 1 月 27 日	東北大学 DEI 推進センター	小川真理子(ジェンダー・エクイティ推進オフィス副 オフィス長)、久保京子(ジェンダー・エクイティ推進 オフィス特任研究員)、中野円佳(DEI 共創戦略室 准教授)
2025 年	九州大学男女共同参	小川真理子、安東明珠花(ジェンダー・エクイティ推

2月18日	画推進室	進オフィス特任研究員)、久保京子、中野円佳
2025年 2月20日	長崎大学ダイバーシ ティ推進センター	小川真理子、安東明珠花、久保京子

7. 情報発信

2024 年度も、本事業を推進するために、ホームページの拡充、ニュースレターの継続発行など広報活動に注力しました。本事業に関連する学内広報、講演等により学内外の研究機関、政府、自治体等に広く本事業および本学の取組を周知しました。

7.1 ジェンダー・エクイティ推進オフィスホームページと関連文書のバイリンガル化と拡充

本事業の目的達成に向けて、海外からの優秀な女性研究者、女性学生の獲得にも力を入れるため、2024 年度も本事業で取り組む各施策に関する文書、ホームページ等の掲載文章においては原則バイリンガル表記として英訳を行いました。また 2024 年度は、これまでの男女共同参画室ホームページを多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィスのホームページとしてリニューアルしました。それに伴い本事業専用のホームページ「#WeChange UTokyo」ならびに、本事業用ホームページの Structure (体制図) も更新しました。なお、2024 年度の #WeChange サイトには、のべ約 3.6 万件 (前年 2.9 万件) (日本語版) がアクセスがありました。トップページに続いてアクセスが多かったのは、2024 年度に実施した「#言葉の逆風」キャンペーンでした。

ジェンダー・エクイティ推進オフィスホームページ

日本語 <https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/index.html>

英語 <https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/en/index.html>

#WeChange UTokyo ホームページ

日本語 <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/>

英語 <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/en>

7.2 東京大学多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィスニュースレター「#WeChange」

ニュースレター「#WeChange」を定期的に発行し、活動報告や取組を盛り込んでいます。2024 年度も、ニュースレターを 10 月および 3 月に発行しました。学内外イベント、他大学への訪問、来訪者対応の際に、ニュースレター、#WeChange 年次報告書を配付しています。ニュースレター及び #WeChange 年次報告書は、本事業のホームページにも掲載し本学の取組を広く周知しています。

東京大学多様性包摂共創センタージェンダー・エクイティ推進オフィスニュースレター

「#WeChange」 <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/contents>

7.3 学内広報

東京大学の学内広報誌を通して積極的に本事業の広報を行いました(表 7-3)。

表 7-1 学内広報

発行年月日	媒体名	題 名
2024.1.25	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第5回「大学運営の魅力とは～女性教員向けイベントを開催」
2024.3.25	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第 6 回「30% Club の 9 大学が声明を発表」
2024.5.27	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第 7 回「「#言葉の逆風」プロジェクトが始動」
2024.7.25	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第8回「「#言葉の逆風」をめぐる対談・議論進む」
2024.9.24	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第9回「ワークライフバランスに着目した研究者支援」
2024.11.25	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第10回「日仏女性研究者のネットワーク形成イベント「Women in Science」開催
2025.1.27	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第11回「女性幹部養成プログラムのネットワーキングイベントを開催」
2025.3.25	東京大学「学内広報」	# WeChangeNow ジェンダー・エクイティ推進オフィス通信 第12 回「大学院生と妊娠・出産・育児を語る」

7.4 講演

2024 年度に開催された学内外講演等について本事業について紹介しました(表 7-2、表 7-3)。学内部局主催シンポジウム等においても本事業に関連する報告を行いました(表 7-4、表 7-5)。

7.4.1 国際会議・シンポジウム

表7-2 国際会議・シンポジウム

講演年月日	講演者	題 名
2024.5.15	林 香里	Women Scientists in Japan・・・ and How We Overcome the Obstacles, ゲーテ・インスティテュート
2024.6.11	林 香里	Diversity and Inclusion at UTokyo・・・and Why It Matters, 駐日オーストラリア大使館
2024.9.25	小川真理子	Toward gender equity : Initiatives and challenges of # WeChange UTokyo, International Alliance of Research Universities (IARU) Gender Group Meeting
2024.10.26	林 香里	Advancing Gender Equity and Diversity in Education: UTokyo's Vision for a Global Future, 国立台湾大学

7.4.2 国内招待講演等

表7-3 国内招待講演等

講演年月日	講演者	題 名
2024.6.5	林 香里	「東京大学のダイバーシティ&インクルージョン推進」東京丸の内ロータリークラブ
2024.9.3	林 香里	「東京大学の D&I 推進」日本弁護士連合会(ハイブリッド開催)
2024.9.27	林 香里	「東京大学のダイバーシティ&インクルージョン推進～男性中心の大学からの脱却を目指して～東北大学情報科学研究科 DEI に関する教育 FD」東北大学情報科学研究科(ハイブリッド開催)
2024.10.10	林 香里	「ナショナルセンターへの期待～大学・研究機関から～」日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会(Web 開催)
2025.1.23	林 香里	「東京大学の D&I 推進 インクルーシブなキャンパスへ 障害のある教職員・学生とともに」国立大学法人筑波技術大学(ハイブリッド開催)

7.4.3 東京大学 IncluDE 及びジェンダー・エクイティ推進オフィス主催シンポジウム報告等

表7-4 東京大学 IncluDE 及びジェンダー・エクイティ推進オフィス主催シンポジウム報告等

年月日	講演者	題 名
2024.6.25.	中野円佳他 学内関係者 3 名	「#言葉の逆風 どう向き合うー『なぜ東大は男だらけなのか』著者、矢口副学長と考える」ジェンダー・エクイティ推進オフィス主催ブックトークイベント ジェンダー・エクイティ推進オフィス主催
2024. 9.30	吉江尚子他 学内関係者 3 名	「ライフサイエンス研究のダイバーシティー多面的な研究、多様なキャリアパス、多彩な研究者ー東京大学編」 IncluDE、産学協創推進本部、一般社団法人ライフサイエンス・ネットワーク・イノベーション・ジャパン(Link-J)共催
2024.10.25	小川真理子	Promoting gender equity and diversity: Efforts of UTokyo Gender Equity Initiative #WeChange, CNRS-The University of Tokyo Event : Women in Science ジェンダー・エクイティ推進オフィス、CNRS Gender Unit 共催(Web 開催)
2024. 12. 4	林香里、 安東明珠花 他学外 1 名	「#言葉の逆風を考えるー脚本家・小説家 吉田恵里香氏 × 理事・副学長 林香里 対談」ジェンダー・エクイティ推進オフィス主催
2024. 12. 9	林香里、森 初果、本郷 恵子、田野 井慶太郎	「#WeChange 女性幹部養成プログラム ネットワーキングイベント座談会」ジェンダー・エクイティ推進オフィス主催

7.4.4 東京大学部局主催シンポジウム報告等

表7-5 東京大学部局主催シンポジウム報告等

2024.7.25	安東明珠花 他学内関係 者 3 名	「ラウンドテーブル「東京大学のジェンダーバランス不均衡を考える」国際高等研究所東京カレッジ、ジェンダー・エクイティ推進オフィス共催(ハイブリッド開催)
-----------	-------------------------	---

7.4.5 その他

表7-6 その他

講演年月日	講演者	題 名
2024.11.25	林 香里	「東京大学のジェンダーギャップへの取組」特定非

		営利活動法人#YourChoiceProject 主催産学 連携ダイバーシティシンポジウム
--	--	--

※#WeChange 報告書の詳しい内容は、#WeChangeWeb サイトの contents ページ
よりご覧ください。

UTokyo 男女¹協働改革#WeChange2024 年度年次報告書
(<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/contents/>)



IncluDE
バリアフリー推進オフィス
Office for Disability Equity

2024 Annual Report

2024年度 報告書

バリアフリー推進オフィス報告書

目次

1. オフィス長挨拶	2
2. バリアフリー推進オフィスの体制	3
3. 2024 年度 支援状況	4
4. 会議等	10
5. 広報／研修・理解促進	12
資料	17

1. オフィス長挨拶

オフィス長 松田 雄二



2006 年、国連で「障害者権利条約」が採択されました。これは、障害者の人権の確保や権利の実現のための措置等について定めたものですが、この条約の中心的な考え方に、「障害の社会モデル」があります。「障害の社会モデル」とは、障害のある人々が経験する様々な困難は、社会がそれらの人々にとって使いにくくできているためであり、そのような困難を解消する責任は社会の側にある、とする考え方です。この考え方は、2013 年に日本で制定された障害者差別解消法などにも取り入れられ、現在では環境整備を行う上での基本的な考え方となっています。

この障害の社会モデルの立場に立って、社会に存在する様々な障壁を解消することが望まれますが、特に建築環境など物理的な障壁について、その解消が現実的には容易ではない場合が多々存在します。そのような場合、障害者権利条約や障害者差別解消法では「合理的配慮 (reasonable accommodation)」を行うことが求められています。この合理的配慮とは、環境を整備する側が、障害者が他のものとの平等を基礎として、人権及び基本的自由を確保するための必要かつ適当な変更および調整で、過度の負担を課さないものとされています。

東京大学も、ここでいう社会に他なりません。東京大学憲章には、本学で学ぶ学生、本学で働く職員、本学で研究と教育にあたる教員からなる全構成員が、障害等を理由に不当な差別を受けることなく、その個性と能力を十全に発揮しうる公正な教育・研究・労働環境の整備を図ると宣言しています。バリアフリー推進オフィスは、その憲章の精神に則った大学キャンパスを実現すべく、本郷キャンパスと駒場Ⅰキャンパスに支所を置いて障害のある学生、教職員のバリアフリー支援のための活動を進めています。

本学では、障害のある学生や教職員を支援するにあたり、部局は人的・物的サポートを、本部は財政的措置を、そしてバリアフリー推進オフィスは支援ノウハウの提供を担っています。そのため、バリアフリー推進オフィスでは支援の経験を積んだスタッフが、障害のある学生・教職員と部局の間に立ち、建設的対話と合理的配慮の実現をサポートしています。また、学生サポートスタッフの要請やアクセシビリティマップの作成と更新、各種情報発信なども行っています。今後、大学を誰にでも開かれた場であり、かつ様々な視点での多様性が実現された環境とするために、より一層の活動の充実が求められると考えております。全学の皆様のご理解とご支援を、心よりお願い致します。

2. バリアフリー推進オフィスの体制

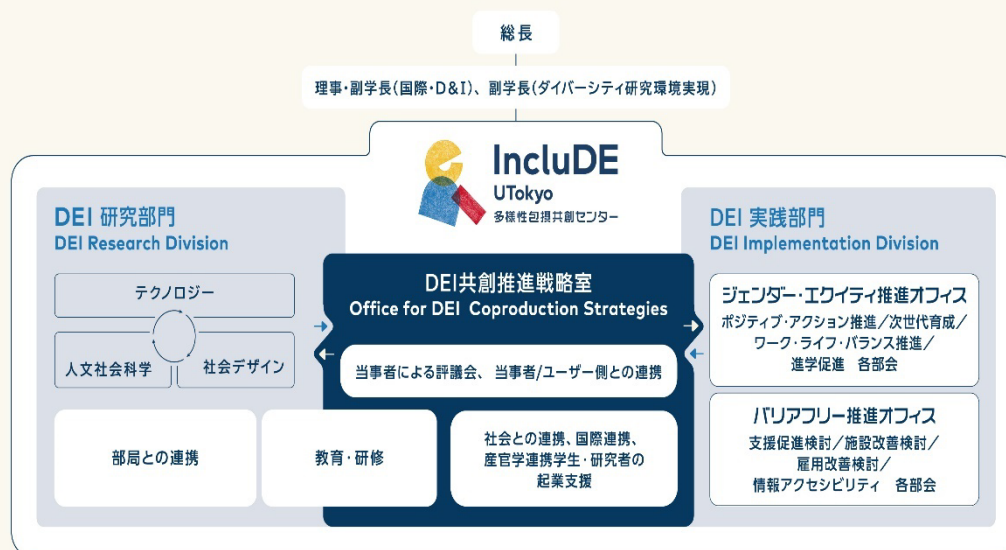
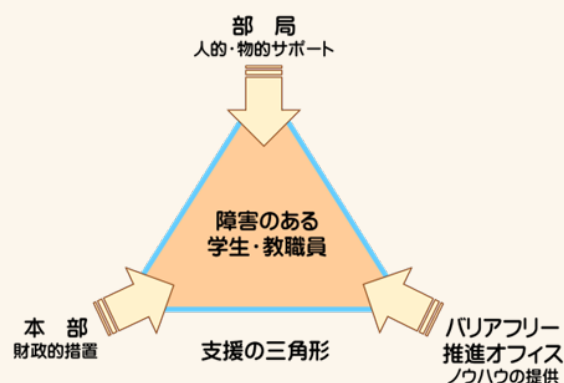
本学は、全学的にバリアフリーを推進するという理念のもと、部局、本部、バリアフリー推進オフィスの三者が互いに連携して障害のある学生・教職員の支援を行う体制をとっています。具体的には、各部局は「バリアフリー支援実施担当者」を選任し、人的・物的サポートを行い、本部は財政的措置を、バリアフリー推進オフィスは部局が支援を進めるにあたっての必要なノウハウの提供を行う、というものです。

全学的な役割を担うため、林香里担当理事・副学長、松田雄二オフィス長、金道浩一本郷支所長、松田恭幸駒場支所長をはじめとする約40名の教職員からなるオフィス員と、本郷・駒場各支所スタッフをバリアフリー推進オフィスの構成メンバーとして活動を行いました(巻末のオフィス員名簿参照)。

年2回開催される「バリアフリー支援連絡会議」では、オフィス員のほか、バリアフリー支援実施担当者、その他オフィス長が必要と認める教職員が一堂に会して、全学のバリアフリー化推進に関する事項および推進オフィスの運営において特に重要な事項についての協議を行いました。

議決機関であるバリアフリー支援連絡会議に向けて、支援促進検討部会、施設改善検討部会、雇用改善検討部会、情報アクセシビリティ部会の4部会が、現在の課題解決にむけて議論を行っています。また、経営企画部、人事部、財務部、施設部、相談支援研究開発センターなど学内の関係部署、あるいは外部機関とも連携し、バリアフリーを推進する体制としています。

1994年4月に、学内共同教育研究施設として多様性包摂共創センター(IncluDE)が創設されたことに伴い、バリアフリー支援室(2004年設置)からバリアフリー推進オフィスへと改組され、DEI実践部門の中に位置づけられました。IncluDEの組織は、以下の図のとおりです。



多様性包摂共創センター(IncluDE)組織図

3. 2024 年度 支援状況

3.1 障害のある学生・教職員への支援

3.1.1 支援概要

障害等がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に学内における修学上必要な活動に相当な制限を受ける者で、本人が支援を受けることを希望し、かつバリアフリー推進オフィス長がその必要性を認めたものに対し、各部局バリアフリー支援実施担当者と連携して、個々のニーズに応じた支援を実施しました。

障害のある学生に関しては、オフィスに支援登録を行った障害学生数が、ここ数年右肩上がりに増加しています。中でも精神障害や発達障害のある学生数の増加が顕著です。身体障害のある学生の支援についても従来どおりの支援に加えて、重度障害のある留学生のように前例のない新たな調整を要する事例もあります。障害学生数の増加に伴い、大学院など学術的により高度なレベルが求められる支援や、実験や実習など多様な場面での支援が必要になることが増えてきています。支援に際しては学内外の資源も含め多方向での調整がなされてきています。

障害のある教職員については、継続的な支援を行っています。2022 年度からは教員だけでなく職員への専属支援者の配置も開始しました。障害のある職員のチームに対しては、チームコーディネーターへの研修を継続しました。

2020 年に起きた新型コロナウイルスのパンデミックは収束に向かい、授業や業務の多くがオンラインから対面に戻りつつあります。しかし、障害のある学生や教職員の中にはオンラインでの受講や在宅での業務を希望する例もあり、そのための調整を要することもありました。また、パンデミックの収束とともに留学生の支援も増えてきています。

大学が事業として行う講習会やシンポジウム等は、対面開催に戻るものもある一方で、オンライン開催として行われるものもあり、これらに参加する一般の障害のある方に対する支援についても調整を要しました。

3.1.2 支援実施状況

①共通の支援

- 1) 支援機器等の貸出
- 2) 施設のバリアフリー検証と施設改善に向けた調整
- 3) 附属図書館による資料電子化サービスへの協力(ノートパソコン、スキャナー、OCR ソフト、PDF 編集ソフト貸出)
- 4) 構内環境案内
- 5) 支援機器検証・試用サポート
- 6) 緊急災害時対応(避難マニュアル)の整備

②学生支援(部局支援実施担当者との連携も含む)

- 1) 授業時の配慮
履修支援、座席配慮、授業内支援(ノート作成、手話通訳、PC テイク、音声認識アプリによる文

字通訳、講義録画の文字起こし、実験補助)、講義に関する配慮(資料等の事前配付)、授業担当教員との情報共有、欠席時の配慮(講義資料・録画の提供・代替課題)、途中退席時の配慮、課題提出配慮(提出方法の変更、期限延長)、授業開始前の実験室見学、オンライン授業対応 等

2) 定期試験時の配慮相談

座席配慮、出題・解答方法配慮、試験時間延長、別室受験、補助具等の持ち込み 等

3) 通学にあたっての構内駐車スペース確保

4) 研究室・実験室内環境調整(適切な机と椅子の配置、昇降機の貸出、スロープ設置等)

5) 大学院生への研究補助支援・実験補助支援

6) ヘルパー待機室提供

7) 休憩室の確保

③教職員支援(部局支援実施担当者との連携も含む)

1) 通勤時等の移動支援(介護タクシー等)

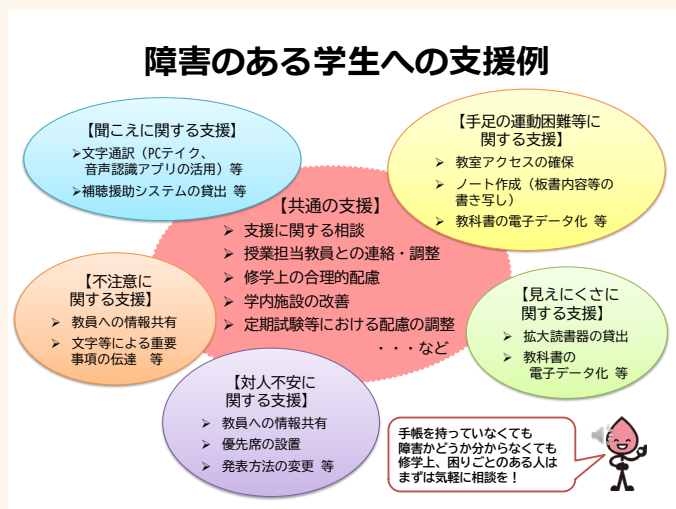
2) 専門的支援者・専属支援者の配置

3) 会議、面談、研修時の情報保障(手話通訳、文字通訳・字幕表示)

4) 音声認識ツールの配備

5) 代理電話サービスの利用

6) 緊急避難対応に関する検証、調整



3.2 施設整備

全学的施設整備については、主に本郷キャンパスにおける部局管理とならない建物外の整備要望を施設部環境課と毎月情報共有し、可能な限りにおいて改善を進めました。障害のある構成員から寄せられる要望や、キャンパス環境の整備に関する情報を集めて検討し、施設部に要望を伝えています。

2024年度のバリアフリー改善状況は次のとおりです。

No.	改善点	改善箇所
1	段差解消工事	1)安田講堂南側マンホール段差解消 2)懷徳門周辺砂利敷
2	歩道安全確保対策工事	1)弥生キャンパス本郷キャンパス間跨道橋階段段差識別シート貼り 2)本部棟脇外部階段スロープ修繕 3)工学部 5 号館ビロティ南側グレーチング改修 4)法学部 4 号館等グレーチング交換
3	誘導用ブロック敷設	1)工学部 5 号館～西片門誘導用ブロック敷設 2)柏Ⅱキャンパス誘導用ブロック敷設(Ⅲ期) 3)誘導用ブロック洗浄

さらに、施設部や部局からのバリアフリー化工事に関する相談には、30 件対応しました。

3.3 支援機器

2024 年度に貸し出した支援機器等

補聴援助システム、音声認識アプリ、音声認識用機材一式(タブレット端末、マイク等)、筆談用器具、代理電話用機材一式(タブレット端末)、拡大読書器(携帯・据置)、PC 画面読み上げソフト、インターネット読み上げソフト、音声読み上げ対応メールソフト、OCR ソフト、点訳ソフト、点字ディスプレイ、点字プリンター、非常用階段避難車、緊急避難用担架、緊急避難用ストレッチャー、災害時用バンダナ、車いす、マット、ベッド、パーティション、昇降机、イヤホン、ワイヤレスチャイム、IC レコーダー

3.4 サポートスタッフ

3.4.1 登録状況

2024 年度のサポートスタッフの登録者は駒場 67 名、本郷 63 名、柏 1 名で計 131 名でした。うち、新規登録者は駒場 8 名、本郷 10 名、柏 1 名で計 19 名でした。

3.4.2 活動状況

サポートスタッフの活動状況として、障害のある学生・教職員への直接的支援では、

- 肢体不自由のある学生に対する授業支援、研究支援(ノート作成)
- 肢体不自由のある学生に対する試験時支援(代筆)
- 視覚障害・肢体不自由のある学生・教職員への書籍・教科書等電子データ化作業

が主な活動内容でした。

その他、障害のある学生とのバリアフリー意見交換会での文字通訳(音声認識アプリの誤変換修正)、バリアフリーマップ調査(柏、白金台キャンパス・9 月)でも活動しました。



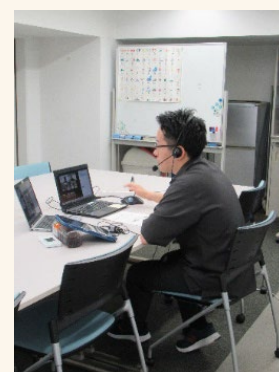
意見交換会での文字通訳

3.4.3 募集、養成状況

活動別入門講座

「支援スキル養成講座」を駒場支所及びオンラインにて計 4 回実施し、7 名が参加しました。

聴覚障害のある学生への支援の一環として、文字通訳支援の技術講習を行いました。主に PC テイク(captiOnline)と音声認識アプリ(UD トーク)を使用し、参加者にはそれぞれの使用方法、要約、修正技術を指導。今回は英語のみの授業での支援の必要もあったため、留学生が参加しており、英語での文字通訳の実践練習も行い、支援スキルの向上を図りました。いずれもバリアフリー推進オフィスのコーディネーターが講師を務めました。



オンラインでの「支援スキル養成講座」

【PC テイク(cptiOnline)】※主に英語での文字通訳練習

実施日時:2024 年 7 月 11 日(木) 2 名

2024 年 7 月 16 日(火) 2 名

【音声認識アプリ(UDトーク)】※主に障害のある学生の意見交換会時の文字通訳練習

実施日時:2024 年 9 月 3 日(火) 1 名

2024 年 9 月 4 日(水) 2 名

3.5 防災訓練・災害時対応

3.5.1 障害者対応の避難機器の貸出・配置

障害のある学生・教職員への緊急時避難対応の取り組みとして、非常用階段避難車キャリダンやイーバック+チェア、ラップ型搬送具エアーストレッチャー・ラップ・ローバル、二分割ストレッチャー、移動用車イス、緊急災害時用トイレとテント等の避難機器の貸出・配置を行っています。

3.5.2 避難機器講習の実施

「非常用階段避難車 定期取扱講習会」

階段移動に困難を伴う障害のある学生・教職員への緊急時避難対応の取り組みとして、避難機器設置時の講習に加えて、非常用階段避難車キャリダンの「定期取扱講習会(年 1 回)」を開催しています。

3.5.3 「防災訓練」当日の同行

	部局・名称	内容	日時	参加者
1	理学系研究科	理学部 1 号館にてラップ型搬送具を使った訓練に立ち会い、二次避難場所への移動も確認しました。	10 月 23 日(水) 12:00~13:15	障害のある学生、 部局職員

3.5.4 その他

①防災訓練の実施依頼(通知)

バリアフリー推進オフィス長から各部局長へ、防災訓練の際は、障害のある学生・教職員の避難も考慮して実施すること及び「障害のある学生・教職員の個別(チーム)の緊急災害時マニュアル」を作成した部局は、当該マニュアルに沿った防災訓練の実施と防災訓練後の個別マニュアルの検証を行うことについて、2024 年度は 5 月 16 日付通知にて依頼しました。



ラップ・ローバルを使用した防災訓練

②緊急災害時に車いす使用者等が利用できる仮設トイレについて

①本郷地区、②弥生・浅野地区、③駒場Ⅰ地区、④駒場Ⅱ地区の各地区において指定されている二次避難後の待機場所に、車いす使用者等が利用できる仮設トイレ(テント、ポータブルトイレ)を整備しています。



SOS バンダナを着用して防災訓練に参加



緊急避難機器「キャリダン」



緊急避難機器「イーバックチェア」



緊急避難機器「ラップ・ローバル」



車いす対応型仮設トイレ

3.6 シンポジウム等事務事業への支援

学内で実施する講習会、公開シンポジウム、公開講座等への手動車いす貸出、手話通訳者派遣、パソコン文字通訳者派遣、音声認識アプリケーションソフト一時利用アカウント発行、タブレット端末貸出、音声認識専用マイク貸出等バリアフリーに関するアドバイス、情報提供を行いました。障害者差別解消法施行を境に全学周知を強化し、施行前との比較において対応件数は増加傾向にあります。

講演会等における配慮の例

1. 開催案内(ポスター、ちらし、ウェブサイト等)記載例

東京大学オープンキャンパス(2025/8/5.6)特設サイト

バリアフリー対応

参加に際して支援が必要な方は、以下のフォームからご連絡ください。

【申請期限：2025年7月21日(月)】

※フォームへの回答は、7月1日(火)のタイムテーブル公開以降から回答可能です。

※都合により、ご希望に添えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

※できるだけ早くご連絡いただけますとスムーズに対応が可能です。

バリアフリー対応申請フォーム

【オープンキャンパス2025】バリアフリー対応申請

支援が必要な方は事前の準備・調整のため、7月21日(月)までに本フォームを提出してください。

※今年のオープンキャンパスはオンラインでの開催となります。当日来場の際はございません。

※7月に公開予定の「タイムテーブル」上で「バリアフリー対応」がされている企画では、事務局等のバリアフリー対応を行う予定です。

このフォームを送信すると、名前やメールアドレスなどの連絡情報が自動的に収集されることはありません。ただし、お返信にご返信をいただく必要がございます。

※ 必須

2. 配慮の例

- 1 車いすを利用する者が車いすのまま参加できるよう可動式のいす、テーブルを設置した会場や、段差がない(スロープを設置した)会場を使用する。



可動式のいす、テーブル
車いすのまま席に着くことができる



スロープ設置
車いすでの壇上へのアクセスが可能となる

- 2 視覚障害のある者等に対して、文字を拡大した資料又は点字翻訳、電子データ化した資料を提供する。

「電子データ化した資料」とは

資料などを、そのままの形式で読むことが困難な人のために、より利用しやすく読みやすい形式に加工する作業を指す。

例

画像データ

- 資料をスキャンして画像形式(PDF、JPEGなど)にしたもの
- (特例)拡大・縮小が自在にできる

テキストデータ(.txt)

- フォントやレイアウト等の情報がない文字だけのデータ
- (特例)音声読み上げソフト(スクリーンリーダー)での読み上げが可能、点字データへの加工も可能

ポータルサイトにマニュアル掲載
「視覚障害のある人が利用しやすい
テキストデータの作成について」

詳しくは、バリアフリー支援室に
お問合せください。

視覚障害のある方等が、音声読み上げソフトを使用して「音声で資料を聞く」ための加工です。

- 3 聴覚障害のある者等に対して、音声情報をパソコン入力により画面に表出させるパソコン文字通訳(手元のパソコン、タブレット又はスクリーン投影)を行う。



パソコン文字通訳 スクリーン投影



パソコン文字通訳者

その他、音声認識アプリ「UDトーク」も試行中!

何かあったらバリアフリー支援室までお問合せください。

公開講座・シンポジウム等における合理的配慮提供に係る全学周知資料(例)

4. 会議等

4.1 バリアフリー支援連絡会議

【目的】全学のバリアフリー推進に関する事項及び推進オフィスの運営において特に重要と判断する事項について協議する。

【出席者】バリアフリー担当理事、バリアフリー推進オフィス長、各支所長、オフィス員、支援実施担当者、その他

【開催日時・開催形式・参加人数】

2024 年度 第 1 回:2024 年 7 月 23 日(火)10:30-12:00

オンライン 参加人数 121 名

第 2 回:2024 年 12 月 23 日(月)14:00-15:30

オンライン 参加人数 123 名

4.2 バリアフリー意見交換会

4.2.1 学生とのバリアフリー意見交換会

【日時】2024 年 9 月 6 日(火)10:00-12:00

【開催形式】対面・オンライン

【出席者】障害のある学生、サポートスタッフ、バリアフリー担当理事・副学長、多様性包摂共創センター長、バリアフリー推進オフィス長、オフィス員、支援実施担当者、オブザーバー 計 52 名

4.2.2 障害のある教職員との意見交換会

【意見交換会〔訪問型〕】

【実施期間】2024 年 8 月～10 月

【実施方法】チーム雇用で働くスタッフの職場に訪問

【実施チーム数】12 チーム

【出席者】障害のある教職員 82 名、

チームコーディネーター33 名、

支援実施担当者等のべ 15 名、

バリアフリー推進オフィス員等のべ 46 名

【意見交換会〔集合型〕】

【日時】2024 年 10 月 10 日(木)

〔午前の部〕10:00-11:30

〔午後の部〕13:00-14:30

【場所】〔午前・午後の部共通〕

医学部教育研究棟 13 階セミナー室(第 5～7)



小石川植物園環境整備チーム
林理事への「ギンナン」贈呈



日光植物園「押し花のしおり」



駒場建物清掃班
建物内へのポスター掲示

【出席者】障害のある教職員 29 名、チームコーディネーター・支援者等 13 名、
支援実施担当者・その他参加希望者 10 名、バリアフリー推進オフィス員等 32 名

4.3 合同検討部会

開催日:2024 年 6 月 18 日、11 月 19 日

4.3.1 支援促進検討部会

<2024 年度検討・報告事項>

1. 本学のバリアフリー支援状況について(報告)
2. 障害学生支援における高度な学術知識や専門性を有する支援者について(報告)
3. 対応要領および留意事項の改正について(報告)
4. 『初めてのバリアフリー支援』(学生編/教職員編)作成
5. 『障害のある学生へのバリアフリー支援ガイド』改訂
各部署がさまざまな支援事例に適切に対応できるよう、
これまでのバリアフリー推進オフィスで蓄積された経験と
ノウハウを一冊にまとめたもの。2024 年 12 月に改訂しました。



『初めてのバリアフリー支援』
UTokyo Portal 便利帳<学内限
いへ

[東京大学 障害のある学生へのバリアフリー支援ガイド | IncluDE 多様性包摂共創センター](#)

東京大学

6. 合理的配慮を踏まえたシラバスのあり方について (意見照会)
7. 学生サポートスタッフによるオンライン授業実施支援について(意見照会)
8. その他(報告)
 - 6-1 支援手続きの見通しをよくする工夫について
 - 6-2 高度な障害学生支援の経過報告
 - 6-3 専属支援者の支援実施に係る手続きのガイド作成



『障害のある学生へのバリアフリー支援ガイド』

4.3.2 施設改善検討部会

<2024 年度検討・報告事項>

1. 今年度のバリアフリー工事要望
段差解消工事、歩道安全確保対策工事、視覚
障害者誘導用ブロック敷設工事、その他
2. 「つながるバリアフリーのために」(改訂)

[つながるバリアフリーのために | IncluDE 多様性包摂共創セン](#)

[ター | 東京大学](#)

3. アクセシビリティマップ(バリアフリーマップ)作成

[アクセシビリティマップ\(バリアフリーマップ\) | 東京大学多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィス](#)

柏地区、白金台地区キャンパスについて作成。



学内好事例紹介
「つながるバリアフリーのために」



アクセシビリティマップ
(バリアフリーマップ)

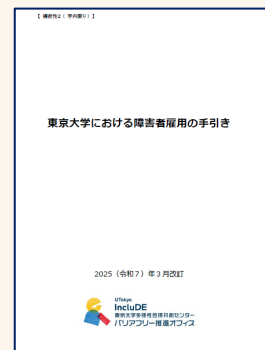
4. その他(報告)

部局等からのバリアフリー化工事相談と対応について

4.3.3 雇用改善検討部会

<2024 年度検討・報告事項>

1. 障害のある教職員の就労に関する諸課題への対応
今後、実態把握・課題特定に向けた情報収集を行う予定
2. インクルージョンサーベイの活用方法に関する検討
具体的施策と結びつけたサーベイ結果の活用方法の提案
3. 『東京大学における障害者雇用の手引き』改訂



東京大学における障害者雇用の手引き
(学内限り)

4.3.4 情報アクセシビリティ部会

<2024 年度検討・報告事項>

1. 情報システムのアクセシビリティ対応ワーキンググループによる次期事務業務端末の検証について
2. 情報システムのアクセシビリティ対応ワーキンググループによる次期事務業務端末の検証結果を受けた提案について
3. Microsoft Teams の教職員用チームを用いた試行運用の拡大について
4. 「次期事務業務端末に関する要望のアンケート」の結果について
5. GAAD(Global Accessibility Awareness Day)に合わせた広報について
6. アクセシビリティマップ改修について(駒場Ⅱキャンパスマップ アクセシビリティ化完成)
[アクセシビリティマップ\(バリアフリーマップ\)](#) | [東京大学多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィス](#)
7. 情報アクセシビリティガイドについて
8. その他活動報告



GAAD の日広報ポスター

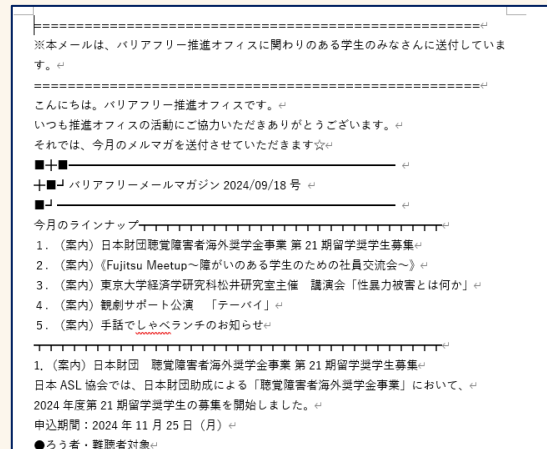
4.4 他部署主催の会議委員等

1. 学生委員会
2. 駒場・学生相談協議会
3. 柏キャンパス相談機関連携会議
4. 障害者集中雇用連絡会
5. 災害対策検討ワーキング
6. 医学部学生支援室運営委員会
7. 障害者差別事案解決委員会
8. キャンパス計画室会議

5. 広報／研修・理解促進

5.1 広報

- 1) 柏地区(柏・柏Ⅱ)バリアフリーマップ
第4版発行
- 2) 白金台バリアフリーマップ第4版発行
- 3) 障害のある学生・サポートスタッフ
メールマガジン 毎月1回



(見本)2024年9月号メールマガジン

5.2 研修・理解促進

5.2.1 学内教職員

- 1) 2024年度新任教職員等基礎講習
視聴期間: 2024年4月1日(月)～6月30日(日)
開催方法: オンラインによるEラーニング
内容: 障害者差別解消法と対応要領について
- 2) 令和6(2024)年度新規採用チームコーディネーター研修会(講義編)
実施日: 2024年5月30日(木)10:00～12:00
開催方法: 学生支援センター2階会議室(本郷キャンパス)
受講者: 3名
内容:
 - 1. 障害者雇用関係法令と合理的配慮
 - 2. 東京大学の障害者雇用の現状
 - 3. バリアフリー推進オフィスの概要及び支援体制
 - 4. 知的・発達・精神障害の特性と対応
 - 5. 障害者雇用におけるチームコーディネーターの役割
- 3) 令和6(2024)年度新規採用チームコーディネーター研修会(実習編)
5月30日に行われた(講義編)に続く研修
内容(共通): 講師が各受講者の職場に出向き、現場の様子を視察しながら具体的な助言や受講者との意見交換(情報交換)を行いました。
■実習A
実施日: 2024年7月18日(木)9:30～12:00
場所(作業等視察): プレハブ研究A棟 215室・202室

(意見交換等):学生支援センター2 階小会議室

■実習B

実施日:2024 年 7 月 18 日(木)13:15~15:45

場所(作業等視察):御殿下研修室A・B、記念室

場所(意見交換等):御殿下研修室B

■実習C

実施日:2024 年 9 月 5 日(木)9:50~12:30

場所(作業等視察):柏 I キャンパス内 富士見通り

場所(意見交換等):バリアフリー推進オフィス柏分室(新領域基盤棟 2 階 2B5 室)

4)FD/SD 研修会

内容(共通):障害のある学生へのバリアフリー支援について
2部局において、各1回実施しました。

- ① 実施日:2024 年 9 月 19 日(木)13:00~13:30
受講者:対面 83 名、オンライン 42 名、合計 125 名
- ② 実施日:2024 年 12 月 18 日(水)15:30~16:10
受講者:対面 31 名、オンライン 7 名、合計 38 名

5)令和 6(2024)年度バリアフリー支援研修会

実施日:2025 年 2 月 7 日(金)~5 月 30 日(金)

開催方法:オンデマンド配信

内容:動画1. 障害者差別解消法と対応要領の改正

視聴人数/回数:152 人/200 回

動画2. 障害のある教職員ピックアップ紹介 Vol.2 並木重宏先生(先端研)

視聴人数/回数:134 人/156 回

5.2.2 学内学生

1)新入留学生生活ガイダンス

4 月、9 月にオンラインによるガイダンス資料の提供

2)バリアフリー推進オフィス説明会

実施日:2024 年 5 月 21 日(火)~6 月 30 日(日)

開催方法:オンデマンド配信(UTAS に案内を掲載)

「東京大学におけるバリアフリー支援の紹介」、「各障害の理解と支援」

3)2024 全学体験ゼミ「ピアサポートマインド入門」講義

実施日:2024 年 6 月 4 日(火)15:10~16:40

会場:21KOMCEE West K303 室

内容:東京大学におけるバリアフリー支援の実際について、当オフィス教員・スタッフから
講義、解説。

5.2.3 学内共通

手話でしゃべランチ(毎月第2・第4火曜日)※第4火曜日は駒場のみ対面実施

実施回数:2024年4月~2025年3月(8月を除く) 計22回

のべ参加者数:2024年度 計78名

内容:本学の学生・教職員が昼食を持参し、手話表現の学習や手話を用いた交流を行うもの。



手話でしゃべランチの案内チラシ

5.2.4 学内行事への協力

1)式典(入学式・学位記授与式・卒業式)

障害のある学生の誘導、PC文字通訳者・手話通訳者対応、車いす貸出し、車いす等の保護者対応に協力しました。事前には、担当者説明会での車いす使用についての説明を行いました。



入学式における手話通訳および字幕投影

撮影: 尾関祐治

2)五月祭

五月祭常任委員向けバリアフリー講習会

【本郷キャンパス】

実施日:①2024年4月24日(水)12:00~13:30

②2024年4月26日(金)12:00~13:30

場所:学生支援センター2階大会議室等

受講者:①15名、②7名、合計22名

内容:障害についての基本知識、障害のある方への接し方、誘導方法(車いす操作含む)

前半は座学、後半は外で実習

3)オープンキャンパス

実施日:2024年8月6日(火)~7日(水)

場所:オンライン(Zoom)

内容:

- ・個別相談
- ・オンデマンド動画配信(3本)
 - ①バリアフリー推進オフィスとは(約10分)
 - ②多様な学び方を見てみよう!(約20分)
 - ③車いすで回る駒場キャンパス(約10分)

4) 駒場祭

駒場祭実行委員向けバリアフリー講習会

実施日:2024年10月24日(火)10:30~11:30、15:10~16:10

場所:駒場Iキャンパス11号館1103教室、12号館1212教室

受講者:合計24名

内容:障害についての基本知識、障害のある方への接し方、誘導方法(車いす操作含む)

前半は座学、後半は外で車いす操作実習

5.2.5 学外

見学・研修対応

1) 東大新聞取材

実施日:2024年4月10日(水)12:00~13:00

取材方法:対面(バリアフリー推進オフィス本郷支所)

取材内容:本郷キャンパスのバリアフリー化の状況、
五月祭開催時のバリアフリー支援の在り方等

2) DO-IT JAPAN スカラー訪問対応

実施日:2024年8月5日(月)11:30~12:15

開催方法:駒場Iキャンパス8号館112室

来訪者:17名

対応内容:東京大学のバリアフリー支援に関する説明、質問対応等

3) 広島ホームテレビ取材

実施日:2025年3月4日(火)10:00~11:00

取材方法:対面(バリアフリー推進オフィス本郷支所)

取材内容:CODA(きこえない親を持つきこえる子供)特集

相談対応

1) PEPNet 相談対応事業による軽度難聴学生の相談会

実施日:①2024年9月30日(月)13:30~16:00

②2025年3月4日(火)14:00~16:00

column corner

UTokyo
バリアフリー最前線！

第31回

障害がある職員のお仕事拝見⑥

建物清掃班駒場分室

の巻



スピーディーで丁寧な清掃

駒場キャンパス、そして留学生が暮らすインターナショナルロッジ・駒場ロッジの清掃を担当する建物清掃班駒場分室。障害がある職員19人とそのサポートを行うコーディネーター6人からなる総勢25人のチームです。2011年に設置されてから、大量に舞い落ちるクスノキの葉を回収し、廊下や階段のシミを拭き取り、ガラスドアを磨き……と学生と教職員の皆さんが気持ち良く過ごせるキャンパスの環境作りの一端を担っています。常に心掛けているのはスピード感と丁寧さ、そして留学生が生活する施設では静穏な作業です。

一日の始まりはミーティングから。その日の担当場所や注意点などを確認し、ストレッチで身体をほぐしたら、6つの班に分かれてそれぞれの持ち場に向かいます。一番大変なのは年に一度のベランダ清掃だと話すのは入職12年目の坂本淳さん。特に秋から冬にかけては、次から次へとベランダに入り込む落ち葉との格闘です。7年目の佐野福人さんは、場所ごとに使用する掃除用具を変え、最適な方法で清掃していると言います。大変なのは酷暑が続く夏。クーラーがない場所での作業も多いため、こまめに水分を補給したり、休憩時間を少し長めにしたりといった対策をしています。

最初はやり方を覚えるのに必死でしたが、今は仕事が楽しいと話すのは7年目の室町公大さん。仕事もスムーズにこなしていますが、床のシミには苦戦することもある。繰り返しモップで拭いても落ちない場合があります。細かいシミは、ぼろ雑巾を使って丁寧にふき取っていると話すのは入職12年目の林亨樹さん。チーム制のいいところは、お互い手助けできるところだと言います。

そして全員が口を揃えて言うのが、「きれいにしてくれてありがとう」などの言葉をかけてもらうことがうれしく、やりがいにつながるということ。清掃班のみなさんをキャンパスで見かけたら、感謝の気持ちを伝えてみてください。



左から：室町公大さん、坂本淳さん、佐野福人さん、林亨樹さん。休憩時には好きな俳優や歌手、鉄道などで盛り上がることも。

UTokyo バリアフリー最前線!

第32回

障害がある職員のお仕事拝見⑦

小石川植物園
の巻


植物園の緑の下の方持ち

およそ16万m²という広大な小石川植物園の清掃を担当しているのは、2008年に発足した環境整備チーム。知的・精神障害のある職員6人とチームコーディネーター3人からなるチームです。

約4,000種類の植物が栽培されている植物園での作業は季節ごとに異なります。桜が開花する前の3、4月はソメイヨシノ林周辺の石や枯れ枝拾い。5、6月はウメの実の収穫、雑草が生い茂る夏には草取りや水やり。秋は落ち葉掃除や腐葉土に適した枯れ葉の収集。そして冬は、枯れ枝集めや鉢植え変え作業などを行います。これらに加えて、トイレや建物内の清掃といった通年作業も担っています。

「体力を使う仕事ですが、季節の移り変わりを味わえ、やりがいがあります」と話すのは入職8年目の牛島章雄さん。仕事内容は多岐にわたり、新しい作業が加わることもあるため、常にメモ帳を携帯しています。

チーム発足当初から続いている作業の一つが、ギンナン、ウメ、カリンなどの実の採集です。袋に入れ、毎年来園者に配布していると説明するのは入職12年目の結束勝弘さん。ギンナンは食べ応えがある大きいものを選んで拾い、ウメは地面に落ちると傷ついてしまうため、竹棒などで軽く叩き、四隅を持ち上げたブルーシートの上に落とします。「ブルーシートが徐々に重くなってくるので腕がたります」と3年目の関口晴人さん。常に身体を動かす仕事なので体力は必須。東大に来る前は事務職だった依田力さんは、体力作りのために週に1、2回ジムに通っているそうです。

7年目の堂園茂幸さんは、草刈り機で刈った草は、熊手を使って取り残しがないよう念入りに集めていると話します。そして、入職4年目の青木美空さんが「ぜひ見てほしい」と話すのが、正門から本館まで続く幅の広い坂道。2～3時間かけて掃き掃除をした後の園路は整然としています。植物園に行った際には、植物や来園者が気持ちよく過ごせるように丁寧に手入れされた環境に注目してみてください。



左から：青木美空さん、関口晴人さん、堂園茂幸さん、依田力さん、結束勝弘さん、牛島章雄さん

オフィス員名簿

2025年3月31日現在			◎部会長 ◇推進オフィス担当					
	部局名	職名	氏名	支援	施設	雇用	情報	備考
1		理事・副学長	林 香里					
2	多様性包摂共創センター	センター長	伊藤 たかね					
3		副理事	松井 正一					
4	教育学研究科・教育学部	教授	李 正連	○				総長補佐
5	新領域創成科学研究科	教授	藤本 博志		○			総長補佐
6	情報理工学系研究科	教授	山崎 俊彦				○	総長補佐
7	先端科学技術研究センター	教授	伊藤 恵理			○		総長補佐
8	工学系研究科・工学部	准教授	松田 雄二		◎			オフィス長
9	多様性包摂共創センター	准教授	切原 賢治	◎	○	○	○	副オフィス長
10	物性研究所	教授	金道 浩一	○		○		本郷支所長
11	総合文化研究科・教養学部	教授	松田 恭幸	○			○	駒場支所長
12	法学政治学研究科・法学部	教授	水津 太郎	○				
13	医学系研究科・医学部	教授	笠井 清登	○				
14	医学系研究科・医学部	准教授	里村 嘉弘			○		
15	人文社会系研究科・文学部	教授	王寺 賢太	○				
16	理学系研究科・理学部	教授	大杉 美穂	○				
17	農学生命科学研究科・農学部	教授	田中 智	○				
18	経済学研究科・経済学部	教授	澤田 康幸			○		
19	教育学研究科・教育学部	教授	星加 良司			◎		
20	先端科学技術研究センター	特任教授	福島 智	○				
21	先端科学技術研究センター	教授	近藤 武夫	○		○	◎	
22	先端科学技術研究センター	教授	熊谷 晋一郎	○	○	○		
23	先端科学技術研究センター	准教授	並木 重宏	○	○			
24	環境安全本部	教授	大久保 靖司		○	○		
25	情報システム本部	准教授	玉造 潤史				○	
26	相談支援研究開発センター	准教授	大島 紀人	○				
27	相談支援研究開発センター	助教	梶 奈美子	○				
28	経営企画部	部長	片山 達也	○	○	○	○	
29	本部ダイバーシティ推進課	課長	増田 健司	○	○	○	○	
30	本部学生支援課	課長	鎌倉 恒	○				
31	本部学生相談支援課	課長	榎本 弘子	○				
32	人事部	部長	小野寺 昌勝			○		
33	本部財務課	課長	中村 侑紀		○			
34	施設部	部長	齋藤 幸司		○			
35	本部環境課	課長	荻原 正暢		○			
36	教養学部等学生支援課	課長	延原 和志	○				
37	多様性包摂共創センター	特任助教	中津 真美	○	○	○	○	
38	バリアフリー推進オフィス	特任専門職員	小野 彰子	○		◇		
39	バリアフリー推進オフィス	特任専門職員	波多野 比美子	○	◇			
40	バリアフリー推進オフィス	特任専門職員	松下 真弓	◇	○		○	
41	バリアフリー推進オフィス	特任専門職員	香川 龍仁	○	○			
42	バリアフリー推進オフィス	係長	石川 真樹子	○	○	○	○	
43	バリアフリー推進オフィス	係長	中山 仁史				◇	
44	バリアフリー推進オフィス	主任	落合 素子	○	○	○	○	
45	バリアフリー推進オフィス	係員	西原 千恵	○	○	○	○	

どうして「障害者支援」ではなく 「バリアフリー支援」なのですか？



「バリアフリー支援」という名称には、障害のある学生また教職員に対して、私たちの社会が築いているバリア（障壁）こそが問題であるという認識が背景にあります。

今の社会で「障害者」とされている人たちに対して、有形・無形の多くの障壁を私たちの社会は築いてしまっています。
そうした障壁こそが問題であり、障害者個人に問題の本質があるのではないという基本的な認識に基づいています。

東京大学では、多様性が組織の価値を高め、
構成員の多様化が組織の活性化に繋がると宣言しています。

バリアフリー推進オフィス所在地・連絡先

【本郷支所】 (本郷キャンパス)



学生支援センターモール階（御殿下記念館北側）
電 話:03-5841-1715
FAX:03-5841-1717

【駒場支所】 (駒場Ⅰキャンパス)



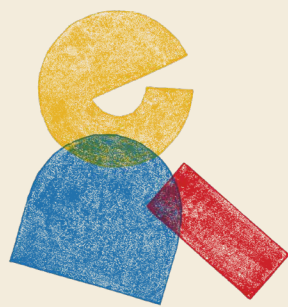
教養学部8号館111号室
電 話:03-5465-8944
FAX:03-5465-8952



【本郷支所柏分室】 (柏地区キャンパス)

※毎週火曜日開室
新領域基盤棟2階2B5 号室
電 話:04-7136-5574

メールアドレス spds-staff.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
URL <https://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>



IncluDE 2024年度 年次報告書

発行者 東京大学多様性包摂共創センター
編集 IncluDE報告書編集委員会（中野円佳・小川真理子・中津真美）
装丁 株式会社 真ん中
発行日 2025年9月22日
発行元 113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学多様性包摂共創センター
<https://include.u-tokyo.ac.jp/>